

小隊又ハ豐後口警視徵募〔原〕隊何

番小隊何分隊ノ類〔曹馬又ハ軍曹伍長ノ場或ハ會計砲廠傳令使病院等各〕

元警部補心得〔何等巡查〕又ハ元何等

部付〔同心得〕

巡查

何ノ某

何府縣 士族 平民

〔戰鬪何度 危險何度〕朱字

本文前ニ倣フ

一警視徵募ニ於テ下士ノ職ヲ務ムル者ハ曹長以下何々ノ場ト記シ

陸軍本官ノ者ト區別スヘシ

一凡戰鬪ノ度數ヲ計算スルハ進擊防戰ノ二者ニ止ル而シテ進擊防

戰共彼我勝敗之一段落ヲ以テ一度トス〔例ハ甲處ノ敵ヲ擊敵〕

依テ更ニ進擊如此〔敵ヲ甲處ニ防キ不利故ニ退テ乙處ヲ守〕其對

者之ヲ二度ニ算ス〔ル敵來リ戰ヲ交ユ亦之ヲ分テ兩度トス〕

疊等ノ如キハ戰鬪線内ニ在リト雖モ度數ニ算スルノ限ニアラス

但斥候先ニシテ敵軍ニ出會交戰遂ニ進擊或ハ防戰等ニ至ル者

亦此例ニ依テ算スヘシ

一履歷副書ニ戰鬪ノ場ヘ朱ニテ〇點ヲ付シ危險ヲ冒セシ處ヘハ朱

ニテ△印ヲ付ケ戰鬪危險ノ度數明瞭メラシムヘシ

一出征中數課ニ轉スル者ハ最後ノ課ヲ揚ルヲ定則トス譬ヘハ初メ

植木口警視隊又ハ其他ノ警視隊ニシテ後々旅團編入ノモノハ別

働第三旅團何大隊何中隊何番小隊ト記スルノ類

一官等記載方奉職之者ハ現今之等級既ニ免職ノ輩ハ其當時ノ等級

ヲ記スヘシ

一 佐賀及ヒ臺灣ノ兩役ヲ經ル者ハ兩度トシ其一役ヲ經ル者ハ一度トシテ前條ノ度數ニ算入スヘシ (但昨年西南ノ役ヲ認メ畢リ而後ナ一野ヲ置キ本文兩役ノ出發經歷歸京月日記載スヘシ

△乙第百廿六號(十一月十八日)各大小區

今般海軍省達乙第九號ヲ以別紙之通達相成候條爲心得此段相達候事

別紙

海軍省乙第九號(十月二十五日)府縣

海軍募兵之儀ハ五年九月乙第百廿七號當省達之通家内之事故ヲ以テ賜暇無之規則ニ候處父母病氣又ハ家督相續等之事故ヲ以テ賜暇或ハ免役等願出候者往々有之不都合之至ニ候條自今右等之事故ヲ

以テ願出候共當省本年乙第七號達定則休暇之外一切不差許候尤父母老疾等ニシテ家ニ侍養之子孫ナキト眞ニ愍諒スヘキ事實有之者ニ限リ臨時特別之詮議ヲ以テ聞届候儀モ可有之候條戸籍書及病癘診斷書相添ヘ地方廳ニ於テ熟閱確認之上願書可差出此旨相達候事
○乙第百廿七號(十一月廿一日)各大小區

今般別紙之通第四拾六號ヲ以陸軍恩給令中改正之儀御達相成候條此

段相達候事

太政官第四拾六號(十月廿六日)官省院使府縣

明治九年十月十九號達陸軍恩給令中左之通改正シ并該令附錄へ第六條ヲ追加候條此旨相達候事

恩給令中改正

一 恩給令第四條第一款(答刑或ハ)ノ文字ヲ删除ス

一同第十四條末款一ヶ年已前ニ嫁シタル者タルヘシノ次ヘ

但戰死或

ハ傷痍ノ源因ニ由テ死ニ至ル軍人ノ寡婦ハ嫁時

ト加フ

ノ年月ニ關セス死傷前ニ婚配セルモノタルヘシ

一同第十八條凡ソ養子ハノ次ヘ(其軍人生前ノ養子ニテ)ノ文字ヲ

加ヘ若シノ次(其軍人生前ニ)ノ文字ヲ删除ス

一同第三十六條(教導團生徒)及ヒ(下士)ノ文字ヲ删除ス

一同第三十七條(其他)ノ上ヘ(教導團生徒ハ其入團ノ日ヨリ)ノ十

三字ヲ加フ

一同第四十一條六ヶ月ノ次(十五日)及ヒ末(例ヘハ云々以下)ノ四

十字ヲ删除ス

但初メノ診斷証書陸軍病院長ノ証書ナレ

ハ此口供書ヲ作ルニ不及第五十

五條ノ診斷証書ノミ作ルヘシ ト加フ

一同第五十五條第六十六條(診斷書)ヲ(診斷証書)ニ改ム

一同第五十六條末款口供書ヲ作りノ次ヘ 但初メノ診斷証書陸軍

口供書ヲ作ルニ不及覆覈 ト加フ

一同第七十條後見人壹名ノ次(又ハ)ヲ及ヒニ改ム

一同第七十一條(婚姻届書)ヲ(婚姻証書)ニ改メ(若シ云々以上ノ

四十字ヲ删除ス

一同第七十二條服役明細書ノ次ヘ(婚姻証書)ノ文字ヲ加フ

一同第八十一條凡ソ恩給ノ次(扶助料)ノ文字ヲ删除ス

一 恩給并扶助料表面罷役恤金ノ區畫中公務中ノ上ヘ(疾病若クハ)ノ文字ヲ加フ

恩給令附錄追加

第六條 停年或ハ傷痍疾病ニ因リ恩給ヲ受タル者爾後再ヒ軍役ニ復シ又ハ文官ノ職ニ就クキハ其時日間其恩給ヲ停止スヘシ依テ就職ノ者ハ拜命ノ都度其本籍ノ管轄廳ニ届出管轄廳ハ之ヲ内務省へ届出可シ（但明治八年四月第四十八號達武官傷痍扶助料概則ニ從ヒ終身扶助料ヲ受ケタル者又ハ明治二年ヨリ八年ニ至ル迄一等傷痍甲症ニ因リ終身一人半口二等傷痍乙症ニ因リ一人口給與ノモノモ總テ本條ニ照シ處分スヘシ）

○乙第百貳拾八號（十二月四日）各大小區

今般別紙第四拾七號之通御達相成候條此段相達候事

太政官第百四十七號（十一月十一日）使府縣

逃亡失踪ノ者尋方ノ儀ハ明治四年^四月達脫籍無産ノ輩復籍規則第七條ニ照シ六ヶ月毎ニ模樣申立三十六ヶ月後永尋申付候處自今不及其儀候條此旨相達候事（但本人逃亡失踪ノ始末及復歸ノ節届出方ノ儀ハ從前ノ通りタルヘキ事）

○乙第百廿九號（十二月六日）十一年乙第一號參考

○乙第百三十拾號（十二月九日）各大小區

諸鑛山借區稅之儀毎年一月前壹ヶ年分上納之成規ニ候處兎角延滞之向モ有之不都合不少ニ付今般其筋ヨリ濟之趣モ有之向後期限ヲ怠リ候様之儀有之候テハ不相濟儀候條坑山借區有之向該小區々戸長ニ於テ取纏メ成規之通り上納証書相添毎年一月十日限リ上納候様可取斗此段相達候事

○乙第百三拾壹號(十二月九日)十一年乙第十六號參考

○乙第百三拾貳號(十二月十六日)各郡

府縣官職制別冊之通被定候條此段相違候事

府縣官職制

〔明治十一年七月太政官第三十二號公達〕

府

知事 一人

縣

令 一人

第一 府知事縣令ハ部内ノ行政事務ヲ總理シ法律及政府ノ命令ヲ執行スルヲ掌ル

第二 府知事縣令ハ内務卿ノ監督ニ屬スト雖モ各省主任ノ事

務ニ就テハ各省卿ノ指揮ヲ受ク

第三 府知事縣令ハ法律及政府ノ命令ヲ執行スル爲ニ要用ナ

リトスルキハ其實施ノ順序ヲ設テ部内ニ布達シ及其適宜處

分ヲ許サレタル事件ニ就テハ規則ヲ設立シテ部内ニ布達ス

ルヲ得而メ發行ノ後直チニ各省主務ノ卿ニ報告スヘシ

第四 府知事縣令ノ布達若クハ處分法律若シクハ政府ノ命令

ト相背キ又ハ權限ヲ侵シタルトキハ太政大臣若クハ各省主

務ノ卿ヨリ取消ヲ命セラルヽコトアルヘシ

第五 府知事縣令行政事務ニ就キ主務ノ卿ニ稟請シ指揮ヲ待

テ處分スヘキ者ハ別ニ定ムル規則ニ從フヘシ

第六 府知事縣令ハ地方稅ヲ徵收シテ部内ノ支費ニ充ツルヲ

得而シテ其豫算決算ヲ具ヘテ内務卿大藏卿ニ報告スルヲ要
ス其府會縣會アル地方ハ之ヲ會議ニ付スヘシ

第七 府知事縣令ハ屬官ヲ判任進退シ其分課ヲ命ス

第八 府知事縣令ハ郡長以下郡ノ吏員ヲ判任進退シ郡務ヲ指
揮監督ス

第九 府知事縣令ハ非常事變アレハ鎮臺若クハ分營ノ將校ニ
通議シテ便宜處分スルヲ得

第十 府知事縣令ハ府會縣會ヲ召集シ及其會議ヲ中止スルヲ
得

第十一 府知事縣令ハ議案ヲ發シテ府會縣會ニ付シ決議ノ後
之ヲ認可シ或ハ認可セサルユトヲ得

大書記官 少書記官 府ハ大少各々一員ヲ置キ縣ハ大少ノ内一員ヲ
ト同ク各々一員
置ク開港所ノ縣事務繁劇ナルハ上請ニ依リ府
ヲ置クヲ許ス

第一 書記官ハ府知事縣令ヲ輔ケテ部内ノ行政事務ヲ參判ス
ルユトヲ掌ル

第二 府知事縣令不在ノ時又ハ事故アルトキハ書記官ハ代理
ノ任ヲ受ク

屬 一等ヨリ十
等ニ至ル

屬ハ事ヲ府知事縣令ニ受ケ庶務ヲ分掌ス

警部 一等ヨリ十
等ニ至ル

警部ハ事ヲ府知事縣令ニ受ケ管内ノ警察ヲ掌ル

郡長 八等
相當 一人

第一 郡長ノ俸給ハ地方税ヨリ支出ス一月八拾圓以下各地方ノ便宜ニ從ヒ府知事縣令之ヲ定ム

第二 郡長ハ該府縣本籍ノ人ヲ以テ之ニ任ス

第三 郡長ハ事ヲ府知事縣令ニ受ケ法律命令ヲ郡内ニ施行シ一郡ノ事務ヲ總理ス

第四 郡長ハ法律命令又ハ規則ニ依テ委任サル、條件及府知事縣令ヨリ特ニ分任ヲ受クル條件ニ付便宜處分シテ後ニ府知事縣令ニ報告ス

第五 郡長ノ處分不當ナリトスルハ府知事縣令ヨリ取消ヲ命セラル、トアルヘシ

第六 郡長ハ町村戸長ヲ監督ス

郡書記 十等ヨリ十七等ニ至ル 定員ナシ

郡書記ノ俸給ハ地方税ヨリ支出ス一ヶ月貳拾圓以下府知事縣令ノ適宜ニ定ムル所ニ從フ其選任進退ハ郡長ノ具狀ニ依リ府知事縣令ノ命スル所ナリ

市街ノ地ニ置ク所ノ區長并書記ハ總テ郡長郡書記ニ同シ

府縣ノ事務主務ノ省ニ稟請シテ後ニ處分スヘキ者ハ左ノ件々トス

第一 郡ヲ分テ及數郡ニ一郡長ヲ置キ及區ヲ定ムル事

第二 郡區經界ノ組替及町村ノ飛地組替ノ事

第三 官給ニ係ル經費ヲ豫算シテ一歳ノ常額ヲ定ムル事

第四 例規ナキ官金出納ノ事

第五 官金管守ノ規則及爲替又ハ預ケノ方法ヲ設クル事

第六 府縣官舎及監獄ヲ新ニ建築スル事

第七 水火災ニ罹リン者ノ租稅延納ヲ許ス事

第八 水火災ニ罹リ家屋蕩盡スル者租稅皆濟期限後二ヶ月以

外延期ノ事

第九 地種變換ノ事

第十 土地ノ變替ニ依リ地租ヲ減スル事

第十一 地價ヲ檢シテ租額ヲ定ムル事

但潰地荒地起返シ又ハ開墾地年期明ニ至リ租額ヲ定ムルハ

此限ニアラス

第十二 河港道路堤防橋梁開墾等ノ類他管ニ關涉スルモノ及

定額外官費ノ支出ニ係ル土功ヲ起ス事

第十三 諸貸下金返納期限六ヶ月以外ノ延期ヲ許可シ又ハ之

ヲ棄捐スル事

第十四 官林伐採ノ事

但治水修路ノ爲メ三等官林ノ竹木ヲ用ユルハ此限ニ在ラス

第十五 官地官宅及其木石ヲ賣却スル事

第十六 酒類ノ稅率ニ用ユル價ヲ定ムル事

第十七 官用ノ爲土地ヲ買上ル事

第十八 社寺除稅地ノ境域ヲ更正スル事

第十九 官林拂下ノ事

第二十 官民有禁伐林ノ事

- 第廿一 森林地及竹木官民有ノ區別ヲ定ムル事
- 第廿二 鑛山借區境界ノ事
- 第廿三 鑛山借區稅猶豫并減免ノ事
- 第廿四 抗法違犯ノ者處分ノ事
- 第廿五 舊金銀貨及通貨損傷ノモノヲ交換スル事
- 第廿六 外國人内地旅行ノ事
- 第廿七 外國人居留地外住居ノ事
- 第廿八 居留地々所外國人へ競貸ノ事
- 第廿九 内外人結婚願ヲ許可スル事
- 第三十 學校補助金ヲ例規外支消スル事
- 第卅一 私立學校ヲ停止スル事

第卅二 府知事縣令ノ名ヲ以テ外國人ト條約ヲ結フ事

第卅三 府知事縣令ノ名ヲ以テ官金辨償トナルヘキ貸借ノ契

約ヲナス事

第卅四 例規ナキ恩典ヲ施行スル事

一 布告布達達指令ヲ以テ專任サレタル事件并ニ定規成例アルノ事
 件ハ地方官各目ノ責任ヲ以テ處分シ上司ニ稟請スルノ例ニアラ
 ス其例規ニ依リ難キ事情アリテ特別ノ處分ヲ要スルモノニ限リ
 理由ヲ具シテ申請スルヲ得

一 諸會社設立願諸鑛開採願圖書板權願賣藥願等ノ條例規則ニ依リ
 地方官ヲ經由スル者ハ府縣掌管ノ事務各省ニ稟請スルノ類ト同
 シカラサルヲ以テ知事令ハ事實ヲ公証スル爲ニ稟書若クハ加印

シテ主務ノ省ニ進達スルモノトス

一嗣後發行スル法律規則中ノ條件府縣長官ノ上司ニ稟請シテ然ル後處分スヘキモノハ每件明文ヲ掲クヘシ

一事重大ニ屬シ例規ナキモノ及非常ノ事件ヲ除クノ外凡ソ地方ノ常務前條々ニ掲載セサル條件ハ地方長官ノ便宜處分シテ後ニ報告スルヲ許ス

戸長職務ノ概目

- 第一 布告布達ヲ町村内ニ示ス事
- 第二 地租及諸稅ヲ取纏メ上納スル事
- 第三 戸籍ノ事
- 第四 徴兵下調ノ事

第五 地所建物船舶質入書入並ニ賣買ニ奥書加印ノ事

第六 地券臺帳ノ事

第七 迷子拾兒及ヒ行旅病人變死人其他事變アルトキハ警察

署ニ報知ノ事

第八 天災又ハ非常ノ難ニ遭ヒ目下窮迫ノ者ヲ具狀スル事

第九 孝子節婦其他篤行ノ者ヲ具狀スル事

第十 町村ノ幼童就學勸誘ノ事

第十一 町村内ノ人民ノ印影簿ヲ整置スル事

第十二 諸帳簿保存管守ノ事

第十三 官費府縣費ニ係ル河港道路堤防橋梁其他修繕保存スヘキ物ニ就キ利害ヲ具狀スル事

右ノ外府知事縣令又ハ郡區長ヨリ命令スル所ノ事務ハ規則又ハ命令ニ依テ從事スヘキ事

其他町村限リ道路橋梁用惡水ノ修繕掃除等凡ソ協議費ヲ以テ支辨スル事件ヲ幹理スルハ此ニ掲タル所ノ限ニ在ラス

地方ノ事務郡區長ニ於テ處分シテ後知事令ニ報告スルヲ得ルモノ左ノ件々トス

- 第一 徵稅并地方稅徵收及不納者處分ノ事
- 第二 徵兵取調ノ事
- 第三 身代限財產取扱ノ事
- 第四 逃亡死亡絶家ノ財產處分ノ事
- 第五 官有地ノ倒木枯木ヲ賣却スル事

第六 電線道路田畑水利ニ障碍アルキ官有樹木ヲ伐採スル事

第七 河岸地借地檢査ノ事

第八 職遊獵願威銃願ノ事

第九 印紙野紙賣捌願ノ事

第十 小學校學資金ノ事

右ノ外府知事縣令ヨリ特ニ委任スル條件

○乙第百三十三號(十二月十六日)各郡

本年第三拾貳號公達ノ趣モ有之郡長ヘ特ニ委任スル事務ノ條目別紙ノ通相定候條此段相達候事

郡長委任條目

第一條 定規アル經費ヲ支出スル事

第二條 郡役所不用之物品ヲ賣却スル事

第三條 郡役所及ヒ郡用ノ倉庫並ニ揭示場ヲ修繕スル事（但金額拾圓以上ニ係ルモノハ此限ニアラス）

第四條 貧民水火風震ノ災ニ罹リ家屋蕩燼スルモノ一時救助ヲ執行スル事

第五條 學校病院土木恤窮等ノ費用トシテ金穀物品ノ寄附願ヲ聽許スル事

第六條（十二年四月乙第百八號ヲ以消除）
但金高四千圓以上及ヒ勅奏任官華族ニ係ル者此限ニアラス

第七條 人畜傳染病豫防ノ法ヲ設ケ施行スル事

第八條 士旅家名相續及隱居養子女相續人入夫願ヲ聽許スル事

第九條 絶家再興及ヒ分家願ヲ聽許スル事

但常備兵役ヲ竟ヘサル以前ニ係ルモノハ此限ニアラス

第十條 改名願ヲ聽許スル事

第十一條 社寺境内ノ枯木倒木等ヲ依願該社寺へ無代價下渡ノ事
但官國幣社ニ係ルモノハ此限アラス

第十二條 社寺建替願ヲ聽許スル事

第十三條 説教所及ヒ教會所等ノ建設願ヲ聽許スル事

第十四條 縣社以下臨時祭及ヒ佛閣開帳願ヲ聽許スル事

第十五條 官有地ニ生育スル動植物一季限入札拂ノ事

第十六條 十二年一月乙第三
十號ヲ以テ削除

第十七條 官有地危難ノ樹木ヲ伐採スル事

- 第十八條 電信柱敷地手當金ヲ見積ル事
- 第十九條 新調ノ舟車檢印願及ヒ破解届ヲ處分スル事
- 第二十條 船舶賣買願ヲ聽許シ及ヒ假鑑札ヲ附與シ之ヲ處分スル事
- 第二十一條 酒造桶ヲ檢査スル事
- 第二十二條 證券印紙貼用ノ諸帳簿ヲ檢査スル事
- 第二十三條 度量衡新調ヲ檢査スル事
- 第二十四條 稅外收入ノ事
- 第二十五條 賣藥請賣及ヒ行商願ヲ聽許スル事
- 第二十六條 眩燈販賣願ヲ聽許スル事
- 第二十七條 例規アル諸營業興廢願ヲ聽許スル事
但酒類釀造受賣願ノ如キハ此限ニアラス事

- 第二十八條 諸賑興行願及市場願ヲ聽許スル事
- 第二十九條 芝居其他ノ定小屋建設願ヲ聽許スル事
- 第三十條 修路ノ爲人馬車駕等ノ通行止願ヲ聽許シ及ヒ其建札ヲ
ス事
- 第三十一條 學校教員講習所ヲ開閉シ及其資金ヲ處分スル事
- 第三十二條 縣廳ヨリ配附スル小學補助金ヲ處分スル事
- 第三十三條 公學所有ノ動不動産ノ處分ヲ認可スル事
- 第三十四條 學校教員ノ會議ヲ舉行スル事
- 第三十五條 公學ノ築造及修繕ヲ認可スル事
- 第三十六條 公學受業料ノ定額ヲ斟酌スル事
- 第三十七條 小學幹事及授業生授業生補ヲ任免進退スル事

第三十八條 小學訓導以下ノ俸給ヲ定ムル事

第三十九條 小學訓導以下ノ除服ヲ達及旅行又ハ引籠ヲ認可スル事

第四十條 郡書記戸長醫務取締等ノ除服ヲ達シ及ヒ歸省旅行療養願

等ヲ聽許スル事

第四十一條 醫務調査掛勸業掛學區世話掛頭取學區世話掛ヲ任免ス

ル事

第四十二條 河港道路堤防橋梁修繕落成検査ノ事(但修繕官民費合

金三百圓以上ハ此限ニアラス)

(十二年一月乙第二十六號ヲ以追加)

第四十三條 官林下草刈取及落葉掻採免許ノ者へ鑑札下渡ノ事(十

二年二月乙第四拾四號ヲ以第四拾三條第四拾四條增加)

第四十四條 官有地所建物拜借料及地所竹木建物等拂下代金未納ノ

モノ處分ノ事

第四十五條 産婆採治針治齒抜願ヲ聽許シ齒抜ヲ除ノ外鑑札ヲ附與

スル事(十二年三月乙第六十七號ヲ以第四拾五條追加)

第四十六條 清酒ヲ除ク外酒類醸造高等検査並取扱之事(十二年四

月乙第九拾八號ヲ以第四拾六條第四拾七條第四拾八條追加)

第四拾七條 検査濟ノ清酒非常ノ災害或ハ腐敗等ノ節検査ノ事

第四拾八條 清酒搾器手入ニ付開封並封印ノ事

第四拾九條 宅地ニ障碍アル官木ヲ伐除スル事(十二年六月乙第百

六拾六號ヲ以第四拾九條以下追加)

第五拾條 段別五段歩以下ノ海面埋立願ヲ検査スル事

第五十一條 官有地建物賣買讓與書入質入ノ節與書スル事

第五十二條 道路並木植繼ノ事

第五十三條 私費ヲ以テ河川へ假橋架設願ヲ聽許スル事

但架橋ノ爲メ地形ヲ變換スルモノハ此限ニアラス

第五拾四條 水車營業興廢願ヲ聽許スル事

但地所變換ニ係ルモノハ此限ニ非ス

第五十五條 酒類醸造及ヒ受賣願ノ興廢ヲ聽許スル事

第五十六條 採藻願ヲ聽許スル事

第五十七條 轉宗改式轉寺届ヲ聽置事

第五十八條 社寺什物取締ノ事

第五十九條 神官僧侶服忌届ヲ聽置及除服ヲ達スル事

第六十條 教導職進退届ヲ聽置ク事

第六十一條 社寺境内へ堂社建築及ヒ建添願ヲ聽置事

第六十二條 難破船及ヒ漂流物ヲ處分スル事

第六拾三條 諸貸下金取立ノ事

第六十四條 官有地へ揭示場建設願ヲ聽許スル事

以上郡長ニ於テ定例成規ニ照シ專決スルヲ得ルト雖モ處分ノ

上其顛末ヲ具申スヘシ但其例規ニ照シ難キ事件及ヒ疑義ニ涉

ルモノ並ニ他ノ郡へ干渉スル事件ハ時々縣令ニ具狀シテ其指

揮ニ從フヘシ

○乙第百三十四號(十二月十六日)各郡

郡長職務心得并附錄共別紙之通相定候條此段相違候事

郡長職務心得

一書記ノ分掌ハ郡長ノ意見ヲ以テ便宜之ヲ定メ縣令ニ報告スヘシ
 一郡長不在ノキ又ハ事故アルトキハ書記ノ内首席ノ者ヲ以テ其事
 務ヲ代理セシムヘシ

一書記ノ進退ハ縣令之ヲ命スルト雖モ常ニ其能否勤惰ヲ監察シ縣
 令ニ具申シテ其黜陟ノ處分ヲ乞フヲ得ヘシ

一郡長ハ郡内ニ向テ布達スルノ權ナク又直ニ官省ト往復スルヲ得
 得ス

一戸長ハ行政事務ニ從事スルト其町村ノ理事者タルト二様ノ性質
 ノ者ニ付其費用ノ地方稅ヲ以テ支辨スヘキト町村限協議費ヲ以
 テ支辨スヘキトハ其事務ニ就キ區分スヘキモノトス

一地方稅ヲ以テ支辨スヘキ事件ト町村限ノ協議費ヲ以テ支辨スヘ

キ事件トノ區分ハ凡ソ地方一般ノ利害ニ關スヘキモノハ地方稅
 支辨ノ部ニ屬シ其町村限又ハ數町村共同ノ利害ニ係ルモノハ其
 町村限協議費ノ支辨ニ屬ス可シ

一郡内ノ安寧ヲ計リ風俗ヲ敦シ學ヲ勸メ業ヲ興ス等ノ事ハ皆郡
 長ノ任スル所ナレハ深ク前途ニ着目シ常ニ注意スヘキ要務トス
 但其舊規ヲ革メ新制ヲ劃ス等ノ如キハ時々縣令ニ具申シテ其
 指揮ヲ乞フヘシ

一縣令ヨリ布達又ハ指令スル事件ニ付キ若シ實際ノ事情ニ抵觸シ
 或ハ人民ノ休戚ニ關スル等ノ事アルトキハ郡長ニ於テ改正又ハ
 廢停ノ見込ヲ具シ縣令ノ裁可ヲ乞フヘシ
 一凡ソ人民ノ願伺届等其縣令ニ出スヘキモノハ與書加印
 書式ハ附
 錄ニ載ス

ノ上送致シ郡長限處分スヘキモノハ成規定例ニ照シテ之ヲ措置
スヘシ（但興書シカタキモノ及ヒ別ニ意見アルモノハ添書ヲ以
テ進達スヘシ

一 凡ソ人民ヨリ出ス所諸願伺ノ文例定規ニ背キ或ハ旨趣不分明ノ
モノハ其旨ヲ諭シ改寫セシムルヲ得ルト雖モ漫ニ之ヲ擯斥スル
ヲ得ス

一 諸會社設立願諸備開採願圖書版權願等ノ如キ縣廳ヲ經テ其主務
省へ稟請スルモノハ郡長ニ於テ規則ニ照シ之ヲ調査シ興書若シ
クハ添書ヲ以テ縣令ニ差出ス可シ

一 郡役所ニ於テ取扱フ諸營業鑑札へハ該郡役所名ヲ記載スヘシ
但賣樂營業鑑札ノ如キハ此限ニアラス

一 凡他郡干涉ノ事件ハ必ス協議ヲ遂ケ施行上乖戾セサルヲ要ス

一 縣令へ稟議ノ事件若シ指令掩滯スルコトアレハ直披ノ書ヲ以テ之
ヲ促スヘシ

一 郡長公務ニ付縣令又ハ主任官員へ面議ヲ要スルトキハ縣令へ稟
議ノ上出頭スヘシ事若シ至急ヲ要シ稟議スルニ違ナキトキハ出
頭ノ上其事由ヲ開陳スヘシ（但廳下へ出頭ノ節及廳下ヲ出立ス
ルトキハ其旨ヲ届出スヘシ

一 全上ニ付キ所管内へ出張及ヒ巡回スルハ別ニ稟議ヲ要セス然レ
モ其出入ノ時々其旨ヲ届出ス可シ

一 書記ヲシテ郡長ノ事務ヲ代理セシムル場合ニ於テハ重大ニ屬ス
ル事件及ヒ或ハ舊制ヲ改メ或ハ新ニ事業ヲ興ス等ノ如キハ已ム

ヲ得サルニ非レハ代理セシム可カラズ

一書記以下ノ分掌ヲ命シ及ヒ郡長限リ進退スル雇抱并醫務調査掛
勸業掛小學幹事授業生學區世話掛其他總テ任免ノ節ハ必ス辭令
書書式ハ附テ交附シ受書ヲ徵収ス可シ

一書記以下ヲ他へ出張セシメ及ヒ書記戸長醫務取締等ノ除服出仕
ヲ達スルトキハ辭令書書式ハ附テ附スヘシ尤一日ニシテ辨スル
出張巡回等ハ此限ニアラス

一郡役所ニ於テ採用スル用掛筆生等ハ準等ナキモノトス

一町村戸長ニ附屬スル用掛ヲ雇フキハ戸長ノ申請ニヨリ認可シテ
戸長ニ於テ申付ルモノトス

一郡務及ヒ委任ヲ受ケタル事件ヲ履行スル諸文書ニハ總テ郡長ノ

姓名ヲ署シ其官印ヲ捺ス可シ

一前條文書ノ料紙ハ美濃形十三行ノ界紙ヲ用フヘシ尤郡役所内ニ

於テ用フル草案等ノ料紙及ヒ離形等アルモノハ此限ニアラス

一諸公文ハ其部類ヲ分テ事ノ細大ニヨラス起原ヨリ結局ニ至ル迄

順序ヲ逐ヒ編纂セシメ錯亂セサル様之ヲ保存スヘシ(但毎年二

月ニ至リ前一ケ年分諸帳簿ノ書目ヲ製シ縣廳へ送致ス可シ

一郡役所中文書取扱ノ手續其他當直等ノ細則ノ如キハ郡長ニ於テ
便宜之ヲ制定ス可シ(但郡吏昇降ノ時限ハ縣廳ノ定制ニ依ル可
シ尤時宜ニヨリ之ヲ伸縮スルハ適宜タルヘシ

郡長職務心得附錄

一人民諸願伺届ノ奥書々式左ノ通タル可シ

何々ノ儀ニ付(願)(伺)(届)

何某儀何々ニ付何々

此段(奉願)(奉伺)(御届申上)候也

何郡何村居住士族
町平民

年月日

何某印

右戸長

何某印

縣令宛

前書(願)(伺)(届)出ノ趣相違無之依之與書致進達候也

年月日

何郡長何某印

一書記以下分掌及雇抱醫務調査掛勸業掛小學幹事授業生同補學區

世話掛頭取學區世話掛等ノ任免辭令書式左之通タル可シ

書記分掌辭令書式 用紙奉書四ツ切

書記何某

何々掛勤仕可有之候事

年月日

何郡

備抱辭令書式 用紙同上

何某

備ヲ以何掛申付以

但勤仕中日給何錢支給候事

年月日

何郡印

何某

備差免候事 或ハ依願 差免候事

何郡

年月日

(用紙同上)

醫務調査掛勸業掛學區世話掛頭取學區世話掛任免辭令書式

何某

醫務調査掛 或ハ勸業掛學區世話 掛頭取學區世話 申付候事

何郡 印

年月日

醫務調査掛 或ハ勸業掛學區世話 掛頭取學區世話 差免候事 或ハ依願 差免候事

何郡

年月日

小學幹事授業生同補任免辭令書式(用紙同上)

何某

囑任小學幹事 或ハ何等授業 生授業生補

何郡 印

但何村何學校へ在勤可致事

年月日

何等授業生 或ハ幹事 授業生補

何某

解任 或ハ依願 解任

何郡

年月日

何等授業生 或ハ幹事 授業生補

何某

何村何學校へ轉勤可致事

年月日

何郡

一書記以下出張巡回及除服出仕辭令書式左之通タルヘシ

出張巡回辭令書式
用紙同上

書記 何某

何々ニ付何所へ出張或ハ何可有之候事

年月日

何郡

何掛雇

何某

何々ニ付何所へ出張或ハ何可有致候事

年月日

何郡

除服出仕辭令書式(用紙同上)

書記 何某

事務繁劇ニ付明何日ヨリ除服出仕可有之事

年月日

何郡

醫務取締

何某

戸長或ハ何掛備

何某

事務繁劇ニ付明何日ヨリ除服出仕可致事

年月日

何郡

○乙第三百三十五號(十二月十六日)各郡

郡役所印一顆ゾ、下渡候條表立候公用文書ニ可相用此段相達候事

但諸帳簿ノ勘合割印其他小事件ニ相用候印鑑左之雛形ニ照準適宜彫刻致シ追テ印影可届出事

印愛媛縣
材何々
黃郡役所
方曲尺壹寸

○乙第百三十六號(十二月十六日)各郡

郡長書記官等俸給左之通相定候條此段相達候事

| | | |
|----|----|---|
| 名稱 | 郡長 | 書記 |
| 官等 | 八等 | 十等 十一等 十二等 十三等 十四等 十五等 十六等 十七等 |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 給額 | 月俸 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 |
| 圓 | 拾八 | 拾六 | 拾五 | 拾四 | 拾四 | 拾三 | 拾三 | 拾貳 | 拾貳 | 拾貳 | 拾貳 | 拾貳 | 拾貳 | 拾貳 | 拾貳 | 拾貳 | 拾貳 | 拾貳 | 拾貳 |

○乙第百三十七號(十二月十六日)各郡

郡書記月俸割賦定則別紙之通相定候條此段相達候事

郡書記月俸割賦定則

反別四千町

人員拾人ノ目安

人口四万人

但一人ニ付金拾圓ノ割

此金百圓

以上反別貳千町ニ壹人人員壹万人ニ壹人ヲ増ス其反別四千町ニ滿
タサル郡ハ貳千町ニ壹人人員四万人ニ滿タサル郡ハ壹万人ニ壹人
ヲ減ス

人員増減ノ給額ハ前ノ目安ニヨリ壹人一月俸拾圓ノ割ヲ以テ算定
スヘシ

人員増減ノ算法反別ハ町位人口ハ拾位未滿勿拾前ノ目安ニ依リ壹
人ニ滿タサルモノハ四拾五入シテ其數ヲ定ムヘシ

前ノ人員ハ月俸金額ヲ定ムルノ目安ニ付キ本額金ノ内ヲ以テ等級
ニ依リ人員ヲ増減シ或ハ適宜雇抱等ヲ置クヲ得

○乙第百三拾八號(十二月十六日)各郡

給與規則及ヒ旅費定則別紙之通相定候條右ニ憑據可取扱此段相達候
事(十二年乙第百五十六號參考)

給與規則

第一條 月俸ハ毎月十七日支給スルヲ定額トス(但休暇ニ當ルキハ
十六日支給ス尤免職病死旅行其他非常ノ事アルキハ此限ニ非ス

第二條 月俸ハ一月ヲ前後ニ分テ新任十五日前ニ在ル者ハ其全額ヲ
給シ十六日後ハ半額ヲ給ス昇等増給モ亦之ニ準ス降等及ヒ免職十
五日前ニ在ル者ハ猶舊等ノ俸半額ヲ給シ十六日後ハ其全額ヲ給ス
ヘシ(但免職ノ者其擔當セシ事務引渡ニ付時日ヲ要スルモ別ニ俸
ヲ給セス尤モ更ニ引渡事務ヲ命スルモノ又ハ後日調査等ノ爲出廳
ヲ命スル者ノ如キハ此限ニ非ス

第三條 上下半月内ニ免職ノ者再任スレハ都テ轉任ノ例ニ倣ヒ第四條ニ準シ其俸ヲ給スヘシ

第四條 一月内再三轉任スレハ月俸支給ノ定日在職ノ廳ニ於テ十五日前後ノ區分ヲ以テ通算シ其官相當ノ俸ヲ給ス若十八日後轉任昇等ノ者ハ新任ノ廳ニ於テ其増額ヲ給スヘシ

但日給ノ者月給ニ轉スルキハ總テ其月ハ月給同様ト見做シ十五日前后ヲ以テ區分シ其多キ方ニ因テ之ヲ給ス月給ヨリ日給ニ轉スルノ如キモ總テ此例ニ準スヘシ

第五條 遠隔ノ地ニ在留ノ者轉任黜陟スルキハ辭令書其地ニ達シ當人受書ヲ出シタル日ヲ推シ十五日前後ノ區分ヲ以テ本官ノ月俸ヲ給シ又ハ給セサルヘシ

第六條 轉任ニ付前官ニテ擔當セシ事務引渡シノ爲時日ヲ經未ダ當官ノ事務ニ着手セサルモ月俸ハ當官ヲ以シ新任ノ廳ニ於給スヘシ

第七條 免職ノ者事務引渡シ濟ノ後在職中ノ事件ニ付更ニ出廳ヲ命スルキハ舊官俸給半額其月ノ現日數日割ヲ以テ之ヲ給スヘシ但在職中自己不正ノ事件ニ付出廳セシムルキハ給セサルヘシ

第八條 許可ヲ得テ歸郷スル者ハ休暇中月俸半額ヲ給スヘシ但計算方法譬ヘハ十五日前奉職地ヲ發足スル者ハ下半月分ヨリ減給シ十六日后發足スル者ハ翌月ヨリ減給スヘシ

一 郷歸中時宜ニヨリ公務ヲ命スルキハ奉務中月俸全額ヲ給スヘシ尤其日數ハ休暇中ニ算入セス且ツ已ムヲ得サル事故アリテ延期ノ追願シ許可ヲ得ル者モ亦本條ノ通タルヘシ尤計算方法ハ前條

ニ準據ス

第九條 病氣引ノ者ハ四ヶ月ノ間月俸全額ヲ給シ其后ハ三分ノ一ヲ給スヘシ（但病氣引十五日ニ至ラハ必ス醫案ヲ副ヘ届出猶在再數月ニ暨フキハ六十日毎ニ更ニ其病狀ヲ届ケ出ヘシ病氣引日數ハ引籠ノ日ヨリ起算スヘシ

一若シ醫案ニヨリ奉職ノ地ヲ離レ郷里又ハ地方ニテ治療セント欲スルモノハ病症ノ經重ニ從ヒ療養ノ日限ヲ定メ願出スヘシ尤許可日限滿テ未ダ全癒ニ至ラサルキハ更ニ其狀ヲ具シ延期ヲ追願スヘシ此場合ニ於テハ奉職地出發前後ノ日數ヲ合算シ本條ニ據テ給スヘシ

一歸郷中發病續キテ療養セント欲スル者ハ右同様上請スヘシ此場

合ニ於テハ其月俸仍ホ第八條ノ通給スヘシ尤歸郷許可ノ日限ヲ除キ四ヶ月以上ニ及フキハ本官月俸三分ノ一タルヘシ

一病氣引四ヶ月計算ノ方法譬ヘハ十五日前引籠ノ者ハ下半月ヨリ之ヲ算シ十六日後引籠ノ者ハ翌月ヨリ之ヲ算スヘシ

第十條 奉職ノ地ニ於テ父母病氣看護ノ爲休假ヲ與フル者ハ第九條ニ準ス

第十一條 公事失錯等ニテ糺問中ハ月俸全額ヲ給ス私事ニ涉ル糺問ト雖モ日數十五日マテハ尙ホ全額ヲ給スヘシ預ケ中或ハ事故アリテ出仕指止ルモノ及私事糺問日數十六日以上ニ及フ者等ハ其月十五日前后ヲ區分シ減シテ五分ノ一ヲ給ス實決問刑ニ處セラル者ハ一切給セサルヘシ（但出仕差止ル者及私事糺問十六日以上ニ及ト

雖は無罪ニ歸スルキハ全額ヲ給スヘシ

一私事訴訟ノ原被告人又ハ証人引合人トナリ之カ爲メ出勤セサル日數十六日ニ及フ者ハ本條ニ準シ減シテ五分ノ一ヲ給スヘシ

第十二條 忌引中ハ月俸全額ヲ給シ且ツ父母忌中墓參ノ爲歸郷ヲ請フ者ハ其忌日限中ハ同ク之ヲ給シ其余ノ日數ハ十五日前后ノ區分ヲ以テ第八條ノ通タルヘシ

但歸郷休暇中父母ノ喪ニ遭フ者モ亦本條ニ據ルヘシ

第十三條 各廳ノ適宜ニヨリ雇抱等ノ名義ヲ以テ出仕セシムルモノ其他門番等給料ノ多寡ニ不抱月給ノ者ハ總テ前條ニ準據スヘシ

第十四條 同條ノ内日給ノ者ハ日曜日並祝日祭日其他一般ノ休暇日ト雖モ給額ヲ渡スヘシ

第十五條 小使諸職人其他小者ノ類ハ給料ノ多寡ニ拘ハラズ雇入放免等ノ月端日數ハ總テ該月ノ現日數日割ヲ以給與スヘシ

第十六條 書記以下事務繁劇亦ハ差掛調物等ニテ退廳午后八時ヲ過レハ辨當料一度分金三錢五厘小者小使ハ金貳錢五厘ヲ給ス

但夜十二時ヲ過レハ二度分徹夜ニ至ハ翌朝分共三度支給スヘシ

第十七條 宿直ノ書記以下雇ハ其夕翌朝分辨當料金七錢ヲ給シ小者小使ハ金五錢ヲ給ス

但宿直ノ小者小使夜中使役ストモ別段辨當料ヲ給セス

第十八條 不寐番ノ者ハ朝夕並夜中辨當料共都合三度分金拾錢五厘ヲ給ス(但小者小使ハ三度分金七錢五厘ヲ給ス)

第十九條 筆墨料ハ寫字專務ノ者ヘ一ヶ月金貳拾五錢其他ノ者ハ金

拾貳錢五厘支給スヘシ(但支給方法ハ十五日前後ヲ以區分スヘシ)

旅費定則

第一章 陸路水路トモ渾テ旅中一切ノ費用トシテ表面ノ通旅費日當ヲ支給ス可シ

第二章 陸路旅費ヲ三分ノ並旅行赴任旅行晝夜急行トナシ各一日十里詰ヲ以テ表面ノ日當ヲ支給ス可シ(十里以上ノ端里數滿一里以上ハ日當一日分ヲ給シ一里未滿ハ切捨トス)

第一項 並旅行ハ該役所ヨリ片道六里以上ヨリ之ヲ給ス(片道六里未滿ハ第四項ニ準ス)

第二項 赴任旅行在勤及新任轉任ノ節該役所ヘ三里以上ヨリ三里未滿ハ一切給之ヲ給ス尤新任ノ者ハ旅費ノ三等ヲ支給スヘシ新任轉任ノ者旅費ハ其採用

ノ役所ヨリ給ス尤便宜ノ爲メ一時其先役所又ハ在籍ノ役所ニテ操替渡スモ追テ其採用ノ役所ヨリ返付スヘシ但シ甲ノ郡吏ヲ乙役所ヘ借用スルノ類モ
乙役所ニ於テ給ス

第三項 晝夜急行晝夜ヲ兼テ急行スルヲ云ハ第一項ニ準シ急行ノ日當ヲ給ス日或ハ半日間急行スルモ亦全シ

第四項 該役所ヨリ片道六里未滿ノ旅行ハ總テ出張巡回ニ拘ハラズ近方派出トシ片道三里未滿ニシテ日歸ナレハ日當ヲ給セス一泊スレハ滯留日當ヲ給シ片道三里以上六里未滿ハ日歸リ一泊ノ別ナク往返ニテ

並旅行日當一日分ヲ給シ滯在スレハ滯留日當ヲ給ス

第五項 出張先滯在中片道三里以上ノ地へ派出ノ節ハ第四項ニ準シ並旅行ノ日當ヲ給ス尤三里未滿ノ地へ同斷ノ節ハ第三章滯留日當ノ外一切給與セス事業中縦横奔走ノ里數ハ算入セス

第六項 行旅中渡海ニ非サレハ至リ難キ場所ハ海路二十里海路一里

六丁九分陸路十里ヲ以陸路十里同様見做シ本章ニ準シ並旅行ノ日當ヲ給ス

七厘五毛海路二十里未滿ノ端里數ハ本

項ノ割合ヲ以陸路へ通算ス

第七項 巡回檢田測量其他巡ハ總テ日數ニ應シ里程ハ並旅行日當ヲ

給ス但シ近方派出ハ第四項ニ準シ滞在ノ節ハ第三章ニ準ス

第八項 十里外ヨリ始ル巡回及ヒ此地ヨリ彼地へ移ルトキ十里以上

ノ場所ハ本章ニ準シ並旅行日當ヲ給シ即日巡回スルモ其日ハ別ニ

日當ヲ給セス尤十里未滿ハ第七項ニ準シ日數ヲ以テ給ス

第九項 測量或ハ堤防等ノ事業ニテ巡回滞在中旅宿ヨリ其測量等ノ

場所へ日々派出スルモ日歸ナレハ里程ニ別ニ旅費ヲ給セス滞留日

當ノミヲ給ス一泊以上ハ里程ニ拘ハラス第七項ニ準ス

第十項 並旅行ハ一日十里請下定ハルト雖御用柄ニ依リ百里ノ行程

ヲ十二三日ニ旅行スルカ如キ事實不得止節ハ右増日數ニ應シ表面

ノ通滞留日當ヲ給スヘシ

第三章 地方出張ハ着翌日ヨリ滞留日當ヲ支給ス可シ

第一項 晝夜急行或ハ便船等ニテ陸路日積リヨリ早着スルモ本章

ニ準シ滞留日當ヲ給ス

第二項 行旅中川留雪支或ハ病氣等ニテ延滞セシ向ハ増日數ノ分

滞留日當ヲ給ス但シ川留雪支ハ其所戸長ノ証書病氣ハ醫師ノ診

察書ヲ差出スヘシ

第三項 出張先病氣ニテ許可ヲ得事務半途ニシテ役所へ歸ル者ハ

旅費ヲ給シ重症ニテ一時其地ニ滞在ヲ乞フ者ハ醫師ノ診断書ヲ

以テ願出レハ滯留日當及歸路ノ旅費ヲ給ス

第四項 三里以上ノ地ヨリ採用ノ向ハ着翌日ヨリ拜命ノ前日マテ旅費ノ三等滯留日當ヲ給ス

第五項 歸省或ハ養病ニテ他所滯在中轉任ノ者ハ其滯在地ヨリ新任役所迄ノ旅費ヲ給シ滯在地ヨリ前役所迄ノ旅費ハ給セス

第四章 縣内旅行ノ節道路ノ便宜ニヨリ他ノ管轄地ヲ通過スルノ類モ管内ニ準スヘシ

第五章 免職ノ者其日ヨリ三十日以内ニ歸郷願出ル者ハ前官ヲ問ハス旅費ノ三等赴任旅費日當ヲ歸郷旅費トシテ其在勤又ハ出張ノ地ヨリ郷里マテ 第二項ニ準ス 支給スヘシ

第一項 免職後歸郷セサル内再任ノ者ハ旅費悉皆返納スヘシ

第二項 歸省或ハ養病ニテ他行中免職又ハ死去ノ者モ本章ニ準シ奉職ノ地ヨリ郷里マテ歸郷旅費ノ額ヲ手當トシテ給ス在勤地ニ於テ死去ノ者モ亦全シ

第三項 出張先ニ於テ免職ノ節家事取纏メノ爲メ從前在職ノ地ヘ立戻ル者ハ出張先ヨリ從前在職ノ地マテハ旅費ノ三等並旅行日當ヲ給シ夫ヨリ郷里マテ歸郷ノ旅費ヲ給ス 出張先ニ於テ死去ノ職ノ地迄ハ旅費ノ三等並旅行日當ノ額夫ヨリ郷里迄ハ歸郷旅費ノ額ヲ手當トシテ給ス

第四項 吏員犯罪又ハ嫌疑等ニテ鞫問中職ヲ免スル者其處決ノ上罪破廉恥甚ニ該ルカ又ハ私罪懲役一年以上ノ刑ヲ受ル者ハ歸郷旅費ヲ給セス

第六章 諸傭ノ者該役所ヘ三里以外ノ地ヨリ呼寄セシ向ニ限り雇入

並罷免ノ旅費ヲ給ス但三里未滿ノ地ニテ傭入ノ者ト雖モ出張先ニ於テ罷免ノ節ハ該地ヨリ歸郷ノ旅費ヲ給ス

第七章 小使諸職人ノ類左ノ通支給スヘシ（十二年乙第九十二號ヲ以並旅行日當滞在日當改正）

四拾錢 並旅行日當 貳拾錢 滞在日當 壹圓三拾錢 晝夜急行

第一項 諸職人等出張先ニテ其業ニ就キ相當ノ賃錢ヲ支給スル分ハ該地滞在中日當ハ給セズ

第八章 郡用荷物運搬費ハ勿論總テ現費支給ノ分ハ証書ヲ添ヘ詳細勘定書ヲ以申請スヘシ証書無之分ハ一切支給セサルヘシ

第九章 地方出張ヲ命スル後其役所ノ都合ニヨリ免セシ者又ハ出發前死去ノ者ハ片道里程三分一ノ旅費ヲ給シ巡回ハ見積リ總日數十

外ヨリ始ル巡回及ヒ此地ヨリ彼地ヘ移ルキノ並旅行里程ハ日數ニ直シ算入シ滞留日數ハ算入セズ 六分一ノ旅費ヲ給ス尤モ願ニ因リ免シタルモノハ一切支給セサル可シ

第一項 並旅行ノ者出發後半途以內ヨリ呼戻セシ者ハ片道分ノ旅費ヲ給シ半途ヲ過キ全様ノ者ハ其里程ニ應シ相當ノ旅費ヲ給ス

第二項 巡回ノ者出發後半途見積リ總日數四分ノ一ヲ云以內ヨリ呼戻セシ節ハ見積リ總日數章ニ同シ半數ノ旅費ヲ給シ半途ヲ過キ同様ノ節ハ日數又ハ里數ニ應シ相當ノ旅費ヲ給ス

第十章 郡役所廢止ノ節人撰ノ上事務引渡シヲ命シ旅行セシムル者ハ仍ホ舊官相當ノ旅費ヲ支給スヘシ

第一項 免職ノ者事務引渡シ濟ノ後在職中ノ事件ニ付更ニ出頭ヲ命スルキハ旅費ノ三等ヲ給ス尤當時在職ノ者ハ其等相當ヲ以テ

支給ス

第二項 往時奉職中ノ公務ニ付糺彈鞫問等ノ呼出ヲ受ル節モ亦第

一項ニ準ス但所決ノ上私罪ニ該ル者ハ一切之ヲ給セス

第十一章 並旅行ヨリ晝夜急行ニ轉スル如キハ總里數ヲ十里毎ニ區

分シ其十里ノ内互ニ相跨ル里數ハ總テ旅費額ノ多キ方ヲ以支給
スヘシ十里未満ノ旅行モ亦之ニ準ス

第十二章 數職兼任ノ者ハ比較ノ各旅費ノ多キ方ニ從ヒ支給スヘシ

第十三章 歸省其他養病等許可ヲ得ル者ト雖モ私事ニ涉ル旅行ハ一

切支給セサル可シ

第十四章

〔十二年乙第九十二號ヲ以第十四章增加〕
〔從前ノ第十四章ヲ第十五章ニ改ム〕

一 郡内海路旅行ノ節其渡海中ハ船賃(實費)ノミヲ給シ一泊スレハ

滞留日當ヲ支給ス

第一項 海陸兩路ニ跨ルキ並旅行ハ片道六里巡回(總里數十二里

以上ノ巡回)ハ一里以上ヨリ並旅行日當ト船賃トヲ併セ給ス尤

近方派出ノ日當ハ第一章第四項ニ準據スヘシ

但並旅行及巡回近方派出等ノ里程ヲ計算スルハ海路ノ里數ヲ

扣除スヘシ

第二項 前項船賃ト並旅行日當トヲ併セ給スル場合ニ於テハ一泊

スルモ滞留日當ヲ給セス

第三項 郡内並旅行及滞留日當ハ郡役所管轄内一般ニ旅行スルモ

ノニ付戸長用掛リ等ト雖トモ其郡役所管轄内へ出張巡回等ハ總

テ此日當ヲ支給スヘシ

第十四章 各郡ノ便宜ニ依リ此定則ニ基キ適宜減少ノ方法ヲ設クル

ハ苦シカラズ

旅費日當表

| | | | |
|--------|--------|--------|-----|
| 諸戸 | 書記 | 郡長 | 役名 |
| 雇長 | 記 | 長 | 等旅 |
| 三等 | 二等 | 一等 | 級費 |
| 拾錢 壹圓五 | 拾錢 貳圓五 | 三圓 | 並縣 |
| 拾錢 壹圓九 | 三圓 | 拾錢 三圓八 | 外 |
| 拾錢 壹圓九 | 三圓 | 拾錢 三圓八 | 旅赴 |
| 錢 三拾五 | 五拾錢 | 七拾錢 | 行任 |
| 八拾錢 | 拾錢 壹圓貳 | 拾錢 壹圓六 | 急晝 |
| 三拾錢 | 四拾錢 | 五拾錢 | 行夜 |
| | | | 帶留 |
| | | | 縣內並 |
| | | | 同帶留 |

△乙第百三十九號(十二月十六日)舊各小區

今般甲第百四十號ヲ以區長以下廢止候處追テ町村戸長新置候迄舊戸

長組頭ニ於テハ事務從前ノ通可取扱此段相達候事(但人民諸願伺届

奥書ノ儀讚岐國ハ當分ノ内受持舊戸長ニ於テ可取扱事

○乙第百四十號(十二月十六日)郡町村

町村戸長職務規則及職務概目別紙ノ通候條此段相達候事

町村戸長職務規則

第壹條 戸長ハ該町村人民ノ公撰ニヨリ縣令之レヲ命スル者トス

第二條 戸長ノ俸給ハ地方稅ヨリ支出シ其額ハ縣令之ヲ定ム

第三條 戸長ハ郡長ノ監督ヲ受ケ行政事務ニ從事シ及ヒ町村共同ノ

事務ヲ辨理スルモノトス

第四條 町村ノ事務若シ舉ラサルモノアレハ戸長其責ニ任スヘシ

第五條 戸長職務ノ概目ハ別ニ示ス所ニ據ル可シ

戸長職務ノ概目

第一 布告布達ヲ町村内ニ示ス事

第二 地租及諸稅取纏メ上納スル事

第三 戸籍ノ事

第四 徵兵下調ノ事

第五 地所建物船舶質入書入並ニ賣買ニ與書加印ノ事

第六 地券臺帳ノ事

第七 迷子捨子及ヒ行旅病人變死人其他事變アルトキハ警察署ニ報

知ノ事

第八 天災又ハ非常ノ難ニ遭ヒ目下窮迫ノ者ヲ具狀スル事

第九 孝子節婦其他篤行ノ者ヲ具狀スル事

第十 町村ノ幼童就學勸誘ノ事

第十一 町村内人民ノ印影簿ヲ整置スル事

第十二 諸帳簿保存管守ノ事

第十三 官費縣費ニ係ル河港道路堤防橋梁其他修繕保存スヘキモノ

ニ就キ利害ヲ具狀スル事

右ノ外縣令又ハ郡長ヨリ命令スル所ノ事務ハ規則又ハ命令ニ依テ

從事スヘキ事

其他町村限リ道路橋梁用惡水ノ修繕掃除等凡ソ協議費ヲ以テ支辨

スル事件ヲ幹理スルハ此ニ掲クル所ノ限ニアラス

○乙第百四拾壹號(十二月十六日)郡町村

町村戸長用掛等級俸給左之通相定候條此段相違候事

(十二年一月乙
第二十二號ヲ

以用掛俸給額廢止同四月乙第百六號ヲ
以戸長等級及俸給表改正依テ別表畧之)

○乙第百四十二號

欠號

△乙第百四拾三號(十二月十六日)各郡

今般甲第百三拾九號ヲ以テ郡町村編制ノ儀布達候ニ付テハ事務請渡
方左之通可相心得此段相違候事

一從前大小區務所以下ノ事務ハ總テ舊區戸長ニ於テ取纏メ郡長ト協
議ノ上郡ト町村トヘ區分シ可請渡事

一事務請渡ノ順序讚岐國ハ九年十二月廿八日外達伊豫國ハ七年
月一

坤第八號達ニ準據可致事

一事務受渡ノ期限ハ郡町村編制施行ノ達書到達ノ日ヨリ日數二十日
ヲ過ヘカラス若シ入組タル事件有之期限內請渡難相整トキハ其事
件ニ限り之ヲ殘務トシ豫メ日限ノ見込ヲ立郡長ヨリ可伺出事

一舊區戸長以下事務受渡濟迄ノ間ハ從前ノ俸給及旅費等依舊民費ヨ
リ之ヲ支給スヘシ尤定期外殘務取扱中ハ舊俸ノ半額日割ヲ以テ同
様支給可致事

一郡町村編制施行ノ達書到達以後舊區戸長ニ於テハ引繼事務取調ノ
外未着手ノ事件ヲ處分スルノ權無之然レトモ目下難差置事件ハ郡
長ノ指揮ヲ受ケ無差支様可取計事

一從前大小區務所二郡若シクハ三郡ニ跨ルモノハ一郡限其事務ヲ區

分シ各其所管ノ郡役所へ可引繼事

一引繼事務取扱上疑團ノ廉ハ總テ郡長ニ於テ指揮スヘシ其郡長ニ於テ指揮及ヒ難キモノハ縣廳へ可伺出事

一從前大小區ノ事務ニ就キ舊區戸長ヨリ縣廳へ稟請スルトキハ必ス郡長ヲ經由シ可差出事

一從前大小區務所以下ノ諸帳簿並ニ文書金穀等郡ト町村トへ可引繼區分ハ其一町村ニ止リ他ニ關係ナキモノハ町村戸長へ引繼其他ハ總テ郡長へ可引繼事

但郡ト町村トノ事務兩端ニ跨リ或ハ一町村ニ止ルヘキ事件ニシテ數町村混淆錯雜スルモノハ夫々引分ケ可引繼事

一從前大小區ニ於テ區費ヲ以テ建設セシ區務所及揭示所等有之ハ郡

長ニ引繼キ郡長ハ追テ存廢ノ見込ヲ立テ處分方可伺出事

一從前大小區務所ニ於テ需用セル椅子テーブル等ノ器具雜品ノ類ハ其儘郡長へ可引繼事

△乙第四百四拾四號(十二月十六日)舊各大小區

今般甲第百三拾九號ヲ以テ郡町村編制ノ義布達候ニ付テハ事務請附方左之通可相心得此段相達候事

別紙(乙第四百四十三號同文ニ付畧之)

○乙第四百四十五號(十二月十六日)各郡

今般甲第四百十三號ヲ以テ學區取締一同解任候ニ付右事務夫々請取今後郡長ニ於テ擔理シ書記ノ内ヲ以テ專任可爲致此段相達候事

○乙四百四拾六號(十二月十六日)各郡

國稅地方稅收納順序及ヒ郡役所限リ取扱候諸帳簿ノ雛形等別冊之通相定候條右ニ照準可取扱此段相達候事(別冊畧之)

○乙第四百四十七號(十二月十六日)各郡

各郡經費概目及ヒ金穀出納順序經費勘定帳雛形並預ケ金出納規則別紙之通相定候條右ニ照準可取扱此段相達候事

〔十一年乙第百五拾七號參考〕

但豫算内譯帳書式之儀ハ追テ可相達候事(別紙畧之)

△乙第四百四十八號(十二月十七日)舊大小區

今般郡町村編制ニ付各郡長左之通撰任候條爲心得此段相達候事

九等警部

- 任大内寒川郡長
- 任三木山田郡長
- 任小豆郡長
- 任香川郡長
- 任阿野鵜足郡長

- 菊地 武照
- 栗生 浩誠
- 木村 四郎
- 松本 貫太郎
- 福家 清太郎

八等屬

八等警部

- 任那珂多度郡長
- 任三野豐田郡長
- 任宇摩郡長
- 任新居郡長
- 任周布桑村郡長
- 任越智郡長
- 任野間風早郡長
- 任和氣温泉久米郡長
- 任伊豫郡長
- 任上浮穴郡長
- 任下浮穴郡長
- 任喜多郡長
- 任西宇和郡長
- 任東宇和郡長
- 任北宇和郡長
- 任南宇和郡長

- 三川 政一
- 石川 宗一
- 大關 貞觀
- 和田 義綱
- 石原 信文
- 石原 信樹
- 長屋 忠明
- 小林 信近
- 山下 氏潜
- 山崎 静
- 秋山 仲
- 檜垣 治郎
- 陶不 密
- 長尾 信敬
- 告森 良
- 都築 温
- 物部 醒滿

○乙第四百四十九號(十二月十六日)郡町村

今般甲第四百四十號ヲ以テ浦役人廢止候處浦役場ノ事務ハ町村戸長ニ於テ可致擔理此段相達候事

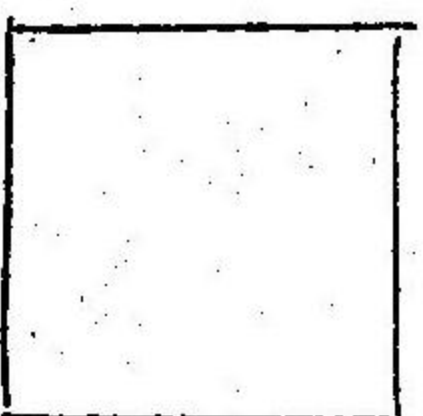
○乙第百五拾號(十二月十九日)各郡 師範學校 派駐訓導

今般太政官本年第十七號公布ニ基キ區畫改正候處派駐訓導受持區分ノ儀ハ追テ相達シ候迄從前之區分ニ仍リ職事爲取扱候條此段相達候事(但給料交付方ノ儀モ當分舊例ニ沿リ候事

○乙第百五拾壹號(十二月廿三日)各郡

郡長及書記官名印寸法左之通相定候條此段相達候事(但代價ノ儀ハ壹顆金四拾錢ノ割ヲ以各郡定額金ノ内ヨリ可仕拂事

方六分



○乙第百五拾貳號(十二月廿一日)各郡町村

今般海軍省乙第拾壹號ヲ以別紙之通達相成候條爲心得此段相達候事

海軍省乙第十一號(十一月十一日)府縣

徵募旅費概則第一條但書追加之儀本年乙第五號ヲ以相達置候處今般左之一項猶追加候條此旨ニ達候事

十里詰并七里詰之者十里内七里内之端數ハ六里以上全數三里以上六里未滿半數ヲ給ス 三里未滿ハ一切給セス

○乙第百五十三號(十二月廿三日)各郡

今般學區取締一同解任右事務擔理爲致候ニ付テハ書記月俸定額ノ外更ニ金拾圓増加候條此段相達候事

○乙第百五十四號(十二月廿三日)各郡

新年紀元天長ノ三大節拜賀之儀廳下在任及ヒ御用有之其節廳下滞在ノ向ハ大禮服着用午前第八時出廳拜賀可致其他ハ參賀不及候條郵便

ヲ以賀表進呈致ス可ク此段相達候事

△乙第百五十五號(十二月廿四日)索引参考

○乙第百五拾六號(十二月廿六日)各郡

今般乙第百三拾八號ヲ以テ給與規則旅費定則相達置候處尙一般須知ノ要件ヲ摘載シ爾後該則附例トシテ相達候條右ニ準據可取扱此段相達候事

旅費定則附例

第一號

第二章 今般御用召ニ應シ出廳拜命セシ郡長郡書記ハ舊身分ヲ問ハス元居住地ヨリ縣廳迄ハ旅費ノ三等ヲ以並旅行ヲ給シ夫ヨリ任地迄官等相當ノ並旅行ヲ給シ吏ニ元居住地ヨリ任地迄ノ直路里程ニ

應シ官等相當ノ並旅行額ト赴任旅費額トノ差異ヲ手當トシテ追給ス(但縣廳下滯留中ハ當官拜命ノ前後ヲ區分シ本文ニ準シ滯留日當ヲ給ス

一縣官ヨリ郡長郡書記へ轉任ノモノハ縣廳ヨリ任地迄當官相當ノ赴任旅費ヲ給ス(但縣廳下滯留中ノ日當ハ給セス

一舊區長書記又ハ舊戸長等縣廳へ出頭郡長郡書記等拜命ノモノ一且舊區へ出廳事務引繼ノ后任處へ赴クモノハ縣廳ヨリ舊區迄ハ當官相當ノ並旅行夫ヨリ任地迄全斷赴任旅費ヲ給ス(但舊區ニ於テ事務引繼ノ爲メ時日ヲ要スルモ別ニ滯留日當ヲ給セス
一前數項ノ旅費ハ總テ郡役所ノ經費タルヘシ

明治十一年十二月廿六日

愛媛縣

○乙第百五十七號(十二月廿七日)各郡

本年乙第百四拾七號達經費概目及ヒ金穀出納順序經費勘定帳離形并預ケ金出納規則中左之通正誤增補候條此段相違候事(正誤增補畧之)

○乙第百五十八號(十二月廿六日)各郡

郡長書記ハ一般ノ官吏ト同シク商賈ノ營業不相成候條爲心得此段相違候事

△乙第百五十九號(十二月廿六日)各郡舊戸長

本年十一月乙第百貳拾號ヲ以テ昨十年西南之役徵募ニ應シ候モノ戰鬪履歴取調之儀相違候節但書ヲ以テ舊新撰旅團へ編入ノモノハ本團ニ於テ調濟ニ付差出シニ及ハス旨相示置候處這同其筋ヨリ掛合越之趣モ有之候ニ付區内無洩觸示シ乙第百貳拾號達シ離形之通取調サセ

來ル十二年一月十日限取纏メ有無共可届出此段相違候事

○乙第百六十號(十二月廿六日)(十一年乙第百二十四號参考)

○乙第百六拾壹號(十二月廿六日)各郡町村

今般海軍省乙第拾號ヲ以テ別紙之通達相成候條爲心得此段相違候事

旅行証票規則

第壹條 海軍下士以下公用並私用ト雖ヒ允許ヲ得旅行スル者總テ書

式ノ旅行証票ヲ授與シ公命ヲ帶ヒ或ハ公允ヲ得ルノ証トナスヘシ

但本人歸投ノ上ハ直ニ還納スヘシ

第二條 証票ハ本管廳鎮守府兵學校等ノ印ヲ押シ豫テ諸艦船營長ニ渡シ置

キ本人ニ授與スルキ其艦船營等ノ印ヲ割押シ長或ハ副長之ニ記名

調印スル者トス

第三條 旅中若シ病氣或ハ天災地變等ニテ不得止滞在スルキハ該地
區^郡戸長ニ証票ヲ示シ而シテ右証票裏面宿泊証書ノ部ニ其事由月日
等ヲ記載調印ヲ受ケ尤病氣ハ該地醫師ノ診斷証書ヲ添フヘシ

但病氣ノ者ハ海軍醫官有之地方ニ於テハ必ス該醫官ノ診斷証書
ニ限ル者トス

第四條 該地方ニ到着スレハ直ニ該地^郡區戸長ニ証票ヲ示シ宿泊証
書ニ着發ノ月日ヲ記載調印ヲ受ケヘシ(但事故アリ允許ヲ得延期
滞在スルキハ第三條ノ手續ヲナスヘシ)

第五條 証票ヲ萬一亡失スルキハ速カニ其事由ヲ該地^郡區戸長ヘ届ケ
再請ノ願書ニ與印ヲ受ケ之ヲ各所轄廳^{艦船}ニ送呈請求スルキハ更
ニ送附スヘシ尤歸投ノ時日ニ迫リ再請出願スル能ハサルカ又送附

ナキ内滿期ニ至リ候節ハ該地^郡區戸長ノ証書ヲ以歸投スルヲ得ヘシ
但其手續ハ第三條第四條ニ同シ

第六條 公務旅行ノ者海軍所轄廳設置ノ地方ニ在テハ該廳ニ於テ第
三條以下ノ手續ヲナスモノトス尤病氣ハ海軍醫官ノ診斷書ヲ添フ
ヘシ

但允許旅行ノモノト雖モ病氣ノモノハ第三條但醫ノ通タルヘシ

西ノ内横折

旅行証票雛形

第(何)號

旅行証票

(艦船警印章)

(ハ朱字)

丈ク 顔 色 眼
鼻 口 痘痕 別徴

(本籍)
(職名何某)
(年齢)

右 (何御用ニ付何月何日何地出發何地ニ
旅行爲致候事)
(何々ニ付何月何日何月何日迄何地
歸省允許候事)

明治年月日

(本管轄印章)
(何艦警長或ハ副長)
(官姓名印)

宿泊証書雛形

(艦船警印章)

宿泊証書

旅行証書裏面

此證書若シ
紙票裏面空
紙不足スル
ハ郡區戸
長ニ於テ適
宜繼足シ證
據トスヘキ
割印ヲナス
ヘシ

(何年何月何日何地ニ
向ケ發程)
(住)

(何年何月何日何地
發程)
(還)
(書法同上)

(何月何日何地ニ着ス)

(書法同上)

(何地)

(郡區戸長印)

(何月何日ヨリ何日迄
病氣或ハ川支ニ由テ
滞在)
(前同斷)

○乙第百六十二號(十二月廿七日)各郡

管内巡查配置方昨十年七月乙第九拾九號及本年十一月乙第百二十三號ヲ以テ相達置候處今般郡區改正ニ付警察本分署交番所位置并所轄區域巡查配置方等更ニ別表之通相定候條爲心得此段相達候事

別表

| 國 | 郡 | 警察署 | 署務人員 | 分署 | 配置人員 | 交番所 |
|----|-----|-----|------|------|------|-------|
| 讚岐 | 山木 | 高松 | 壹等參 | 引田 | 貳 | 三本松 |
| | | | | 津田 | 貳 | 當田 |
| 讚岐 | 小豆 | 高松 | 參等六 | 平木 | 貳 | 鹿庭 |
| | | | | 坂元 | 貳 | 元山 |
| 讚岐 | 阿野 | 高松 | 四等六 | 坂元 | 貳 | 西植田 |
| | | | | 下法軍寺 | 貳 | 安原笠居由 |
| 讚岐 | 多度 | 高松 | 壹等三 | 九龜 | 貳 | 垂水 |
| | | | | 高瀬 | 貳 | 七ヶ村 |
| 伊豫 | 宇摩 | 西條 | 三等三 | 觀音寺 | 貳 | 仁尾 |
| | | | | 川江 | 貳 | 井關 |
| 伊豫 | 桑村 | 今治 | 三等三 | 丹原 | 貳 | 寒川 |
| | | | | 宮窪 | 貳 | 別子山 |
| 伊豫 | 野間 | 今治 | 四等三 | 菊岡 | 貳 | 萩生 |
| | | | | 三津 | 貳 | 黑島 |
| 伊豫 | 和氣 | 今治 | 壹等三 | 久米 | 貳 | 石經 |
| | | | | 鷹子 | 貳 | 新屋敷 |
| 伊豫 | 上浮穴 | 松山 | 三等五 | 久万 | 貳 | 壬生川 |
| | | | | 浮穴 | 貳 | 木浦 |
| 伊豫 | 伊豫 | 松山 | 四等四 | 郡中 | 貳 | 岩城 |
| | | | | 長濱 | 貳 | 鬼原 |
| 喜多 | 喜多 | 喜多 | 三等三 | 内子 | 貳 | 新谷 |
| | | | | 長濱 | 貳 | 八多 |

△乙第百六拾四號(十二月廿八日)各郡

文部省委托小學補助金ノ儀ハ從前直々ニ各小學校ヘ分與致來候處十一年度下半季分ヨリ即十二年一月一先其役場迄配賦シ郡内ノ事情ニ應シ適宜仕拂ハセ候ニ付テハ右勘定仕上ノ儀ハ別紙雛形ニ準シ毎年六月十二月兩度ニ區分シ翌月十五日限リ縣廳ヘ差出スヘク此取相違候事(但文部省本年第九號府縣達ノ趣モ有之候ニ付該金仕拂ノ途ハ別テ例規ニ違背ナキ様注意可致事

別紙雛形

表紙

明治何年何月ヨリ何月マテ小學補助金勘定帳

何郡

用紙十行罫紙

一金何程

明治何年何月ヨリ何月迄元受高

内

金何程

前季ヨリ越高

金何程

此ニ越高ヲ揚クルハ二季目以降ノ書式ナリ

金何程

何月ヨリ何月迄ノ分何月何日縣廳ヨリ受取

一金何程

明治何年何月ヨリ何月迄遺拂高

内

金何程

公立小學幾何校ヘ配付高
公立小學校ヘ配付ノ爲メ
書籍買入費

金何程

市達全要

下卷

乙號

百三十

金何程

同上器械買入費

(以下廉限リ如此記載スヘシ)

一金何程

元拂差引殘

右者明治何年何月ヨリ何月迄小學補助金受拂勘定仕上書面ノ通相違無之候也

年月日

郡長姓名印

縣令宛

△乙第百六拾五號(十二月廿八日)各郡

昨十年七月十九日乙第九拾七號達私學開業規則自今廢止候條猶普通教育上ニ妨害ナキ様注意ヲ加ヘ監督可致此段相違候事

但私學ノ開閉前教則等ハ從前ノ通出願可致筋ニ付本文規則末條私

學開業出願書式ノ儀ハ今後モ其儘遵用可致事(十二年乙第百八拾

八號ヲ以テ(出願可致)ヲ(可伺出ト改メ下ノ(出願)ヲ(伺)ト改ム

△乙第百六拾六號(十二月廿八日)各郡

郡役所ニ於テ徵稅取扱方之義ニ付テハ豫テ其筋ヘ及稟議置候處今以指令無之目今各役所開設ニ際シ差支候ニ付追テ何分之義相違候迄差向左之通取計置人名等可届出此段相違候事

一郡役所ニ於テ金銀紙幣取扱方二名其最寄ニテ身元充分慥成者相撰鑑定可申付事

一上納金銀紙幣之内万一價或ハ不足アルキハ鑑定人ニテ償金可致旨豫テ請書可取置事

一納人ヨリ金高千分ノ一手數料ハ可取立置事

但該金處分ノ義ハ追テ可相達候事

△丙第壹號(一月十四日)第八大區ヨリ第廿一大區迄

地租金抵當預米之儀ニ付昨明治十年十二月十三日甲百五十三號ヲ以布達候

候ニ付ハ明治十年分伊豫國各地上米平均相場左之通候條此段布達事

米壹石ニ付金四圓三拾錢四厘三毛壹糸

△丙第貳號(一月十四日)

明治七年^九月太政官第九拾貳號ヲ以公布相成候社寺遞減祿ノ内明治十

一年ヨリ同十六年迄ニ年々可相渡金額一時繰上ケ給與ノ儀出願ノ者

ハ一割利引ノ算則ヲ以可下渡旨其筋ヨリ達有之候條志願ノ向ハ本月

三十一日迄ニ可願出此段讚岐國遞減祿所有ノ社寺へ布達候事

△丙第三號(一月十九日)第一大區ヨリ第七大區迄

地租金抵當預米之儀ニ付昨明治十年十二月十三日甲第百五拾三號ヲ以布達

候ニ付テハ明治十年分讚岐國各地上米平均相場左之通候條此段布達

候事

米壹石ニ付金四圓八拾壹錢三厘四毛九糸

○丙第四號(一月廿五日)

明治十年丙第八號賦金徵收規則中左ノ通旨書追加候條此段右營業ノ

者へ布達候事

第一條 貸座敷及ヒ娼妓ノ賦金云々

但一月ハ七日上納可致事

△丙第五號(一月三十日)

布達候事
昨明治十年伊豫國土功夫食米石代相場左之通候條此段伊豫國各區へ

下米壹石ニ付

金四圓壹錢九厘六毛

△内第六號(二月九日)索引參考

○丙第七號(二月廿三日)

今般針治揉治心得書左之通假設候條此旨右營業ノ者へ布達候事

針治揉治心得書

第一條 針治揉治トモ人ノ請求ニ應スルモノニシテ苟シクモ己ヨリ
之ヲ勸メ強テ其術ヲ施スヘカラス

第二條 針治ハ醫師ノ指圖ヲ受クルニ非サレハ術ヲ施スヘカラス

第三條 針治揉治トモ人ニ藥劑ヲ與フルハ勿論賣藥其他一切藥方ヲ
指示シテ之ヲ内服外敷セシムヘカラス

第四條 請合療治ト唱ヘ日限ヲ豫定シ強テ其術ヲ施スヘカラス

第五條 人ノ請求タリヒ醫師ニ於テ危篤ノ症或ハ針揉スヘカラサル
症ト認ムレハカメテ之ヲ辭スヘク若シ之ヲ辭シ得シテ術ヲ施シ
タルハ假令其實人ノ請求ニ據リ止ムヲ得サルニ出ツルト雖モ其誤
治ノ責ハ專ラ該者ニ歸スルモノトス

第六條 針治ハ其施治ノ者屬族職業氏名年齢及ヒ患狀刺針ノ部分度
數等詳細ニ簿記シ置キ每半年分取纏メ一月七月兩度ニ醫務取締ヲ
經テ届出ツヘシ

第七條 前條ノ規約ニ違フ者ハ直クニ鑑札取上ケ營業ヲ差止ムヘシ

△丙第八號(二月廿六日)第一大區ヨリ第七大區マテ

官有地拂下代金年割又ハ月割上納等ニテ未納中拂受人ハ其土地假有者ニシテ所有之全權無之答ニ付右地代金皆納以前ハ地券授與不致候因テハ從前授與シタル分モ右未納中質入書入難相成旨内務省ヨリ達之趣モ有之候條此段爲心得布達候事(但地券授與前タリ其地ヨリ生スル利益ハ拂受人之有トシ地租區入費等ハ拂受人ヨリ相納可申事

△丙第九號(二月廿七日)索引參考

△丙第拾號(三月四日)

先般松山病院収養館内へ醫學所開設候ニ付同所ニ於テ藥舖學モ教授致候條該營業ノ者ノ子弟其他有志ノモノハ同所へ可申出此段伊豫國へ布達候事

○丙第拾壹號(三月九日)第十四大區ヲ除ク

五拾石未滿商船及躰漁船海川小回船等新規造船檢印願自今後別紙書式ニ倣ヒ可差出此段伊豫國へ布達候事

別紙

書式

何船御檢印願

一何船壹艘 舳梁ヨリ 長何間
艦梁マテ

税金何程 半額

右之通今船新規造船仕候間御檢印被成下度税金相添此段奉願上候以上

第何大區何小區何郡何村

族籍

年月日

何某印

縣長官宛

○丙第拾貳號(三月廿二日)

醫業以下各鑑札下渡ノ義本年二月甲第貳拾號ヲ以テ布達候處右ハ同
布達限日迄高松支廳へ可願出此段讚岐國へ布達候事

但爾後各鑑札ノ書替ヲ願フモノ其他廢業或ハ他府縣へ轉籍ノ節鑑
札ヲ還納スルモノ總テ支廳へ差出スヘシ

○丙第拾三號(三月廿二日)

種痘免狀下附ノ儀ハ是迄本廳へ願出來候處自今高松支廳へ可願出此
段讚岐國へ布達候事

○丙第拾四號(四月二日)

明治十年丙第拾四號ヲ以テ季節内釀造酒石高檢查之儀ハ其小區戸
長之檢查ヲ請可致賣捌旨及布達置候處右布達ハ取消爾後官員派出可
及檢査候條此段伊豫國酒造營業人共へ布達候事(但當季ノ釀造ニ限
目下賣捌差支候向ハ其小區戸長ノ檢査ヲ請可致賣捌候事

○丙第十五號(四月十五日)

幼年戸主ニシテ後見人へ家事依托中ハ實印ヲ用ルニ及ハス尤モ調印
ヲ要スル時ハ後見人ニテ調印可致義ト可心得且ツ舊香川縣明治九年
第五十一號達後見人届書式ハ改正候條今後親族者ヨリ可届出此段
讚岐國へ布達候事

改正書式

乙號

百三十五

後見人御届

第何大區何小區何_村何拾何番屋敷

何ノ誰

右之者今般家督相續願濟ニ候處幼年ニ付第何大區何小區何_村何拾何番地何ノ誰(同人家族何々ノ誰)へ後見爲仕候間此段御届仕候也

第何大區何小區何_村何拾何番屋敷

前記ノ者トノ繼柄ヲ認ムヘシ無繼何ノ誰

第何大區何小區何_村何拾何番屋敷

前ニ同シ

何ノ誰

○丙第十六號(四月十七日)

明治八年舊名東縣第四百四拾六號布達諸車所持之者心得方左之通改定

候條此段讚岐國へ布達候事

一諸車新調ハ勿論賣買破解等致候節ハ速ニ該小區長へ可届出事

一諸車稅ハ前半年分ハ一月中後半年分ハ七月中現在所持ノ者ヨリ納

稅可致事

一二月七月中賣買ノ者ハ賣主ヨリ納稅可致事

一新調之節ハ其半季分ノ稅金其時々上納可致事

○丙第十七號(四月十七日)

五拾石以上商船前躰漁船海川小回船等新規造船之節ハ其半季分之稅金其時々徵取候ニ付五拾石以上船ハ鑑札其他躰漁船海川小回船等ハ檢印願出之節右稅金可致上納此段讚岐國へ布達候事

△丙第十八號(四月三十日)第十四十九大區ヲ除ク

海面漁魚願之儀ニ付テハ昨十年十二月甲第百五拾四號布達及本年丁第拾五號ヲ以テ相續置候趣モ有之候處出願方遷延スルノミナラス中ニハ取締人撰定ノ届モ不致甚以テ不都合ノ事ニ候右ハ本月十五日限リノ處尙來ル五月二十日迄猶隊候ニ付同日迄ニハ必出願可致若シ同日迄ニ出願無之向ハ假令從來ノ慣行ソル向ト雖モ其慣行ハ放棄セシモノト見做シ誰彼ヲ問ハス出願次第可差許候條其際如何様ノ苦情申立候共一切採用不致候此段相違候事

但是迄己ニ出願セシ内ニハ漁場區域ヲ擴メ兼テ届出タル圖面ニ齟齬シ或ハ收獲令高ハ前日調査セシ金額ニ不突合夫カ爲メ質問等ニ手數ヲ煩シ不都合不少仍テ
讚岐國ハ明治十年五月
伊豫國ハ明治七年十二月 届出タル繪圖面及ヒ收獲調査ニ支梧セサル様注意可致事

○丙第十九號(五月廿日)

管下人民戸主ノ者他府縣へ寄留又ハ旅行等致候節ハ留守引請人相定委任狀相渡置發程可致處間ニハ無其儀爲之往々差支ヲ生シ候事モ有之候條自今戸主ノ者ハ必ス別紙書式ニ做ヒ本區小區長エ可届出此段讚岐國へ布達候事(但目今寄留又ハ旅行中ノ者留守引請人ヲ定メサル向ハ本文ノ趣親族ヨリ通達シ留守引請人相定可申儀ト可相心得事

寄留
旅行之儀ニ付届(別紙)

私儀此度何用ニ付何所へ寄留
旅行仕度候ニ付テハ留守中公私之事務何ノ誰へ委任仕置候間此段御届申上候以上

第何大區何小區何郡何村何番屋敷

士族平民

年月日

何ノ誰

小區長宛

留守引請之儀ニ付届

第何大區何小區^村何ノ誰何所へ^{寄留}旅行致候ニ付テハ留守中公私ノ事務私共引請候間此段御届申上候以上

第何大區何小區何郡何^村何番屋敷

士族平民

年月日

何ノ誰

小區長宛

○丙第貳拾號(五月廿三日)

地所變換之内耕地壹筆中ニ限リ僅ニ壹畝歩以下ノ堀或ハ井戸ヲ新鑿

シ又ハ堀添等ヲ致シ一巳ノ灌溉ニ供シ候向ハ自今願出ニ不及候條后来存置スヘキト一時ノ供汲等ニ係ルトナ區別シ地形反別明了ニ圖面相添隣地持主連署ノ上時々區戸長ヲ經テ可届出尤該區戸長ニ於テハ篤ト精査ヲ遂ケ他ニ障害無之ト見認候上ハ其旨奥書可致此段更ニ讀岐國へ布達候事(但他ノ耕地一般ニ涉ルカ又ハ本文限度ノ步數ヲ超ユル者ハ都テ願出候儀ト可相心得事

△丙第貳拾一號(七月一日)

明治七年^四月^{舊名東縣}第^{五拾三號}布達ハ取消候條此段讀岐國へ布達候事

○丙第貳拾貳號(七月廿九日)

淨漁船並海川小回船等管内限賣買之節ハ自今賣渡人買受人連署之上

可願出此段讚岐國へ布達候事

但從前之布達達等本入ニ抵觸スル分ハ渾テ取消候儀ト心得ヘシ

○丙第廿三號(十月廿五日)

明治九年^五月地租改正事務局甲第一號ヲ以地券書換証印稅額更正相成

候就テハ右以降ハ代替讓與ニアラサル者ハ假令妻子兄弟及其他ノ親

戚ニ無代附與ノ者タリモ券面代價ニ應シ証印稅上納可致此段讚岐國

へ布達候事(但明治九年五月以後代替ニアラサル讓與ニシテ券狀壹

通ニ付書換証印稅壹錢ツ、收入セシ分ハ其不足額消徵可致候事

○丙第廿四號(十月卅一日)

酒類釀成之分檢査願出方左之通相定候條此段讚岐國酒造營業人共へ

布達候事

第一條 季節内釀成ノ清酒見込高無増減ノ分ハ甲號見込高届出ノ後

増石有之分ハ乙號同届出ノ後減石ノ分ハ丙號書式ノ通可相心得事

第二條 季節外釀成ノ清酒ハ丁號書式之通可相心得事

但他ノ酒類モ本文丁號書式ニ準ス

第三條 前條ノ願書ハ場合ニヨリ派出官員へ直々可差出事

第四條 右願書ハ正副押切印ノ上一通ハ縣廳ニ止メ一通ハ後証ノ爲

メ營業人へ可下渡事

甲號

干支季節内製酒御檢査願

見込御届高釀造元玄米何程

此製酒何程

一清酒何程

製酒高

乙號

百三十九

內譯

何程 季節外ノ分

何年何月何日ヨリ何年何月何日マテ都合幾度検査濟ノ分

何程 季節内ノ分

此内

第何號 〔酒桶側面へ記載ノ號番及石數ヲ書記スヘシ以下之ニ倣フ〕

何程

第何號

何程

以下幾口アルモ之ニ倣フ

何程

端石

右ハ千支季節内製酒高書面ノ通ニ候間御検査被成下度此段奉願候
以上

第何大區何小區何郡何村何番地

清酒營業人

年月日

何某印

縣令宛

小區長

何某印

乙號

千支季節内製酒御検査願

見込御届高醸造元立米何程

此製酒何程

外釀造元立米何程
製酒何程

何年何月何日御届増石

一清酒何程

製酒高

内譯

以下甲號書式ノ通

丙號

干支季節内製酒御検査願

見込御届高釀造元立米何程

此製酒何程

内釀造元立米何程
製酒何程

何年何月何日御届減石

一清酒何程

製酒高

内譯

以下甲號書式ノ通

丁號

見込御届高釀造元立米何程

此製酒何程

内季節外釀造元立米何程
製酒何程之内

〔他ノ酒類ハ内書季節
外云々ノ數字ヲ省ク〕

一清酒何程

右ハ干支季節外製酒見込ノ内今般釀成ノ分書面之通候間御検査
被成下度此段奉願候以上

以下甲號書式ノ通

△丙第貳拾五號(十二月十六日)

今般高松支廳廢止候處十二年一月中收納スヘキ諸稅并ニ地租改正地

券書換ノ儀ハ同地ニ出張所ヲ置キ爲取扱候條此段讚岐國へ布達候事

〔十一年丙第
廿七號參考〕

△丙第二十六號(十二月廿三日)

來明治十二年一月納期ノ租稅ハ郡役所開設後ト雖モ是迄之通縣廳ニ於テ收入候條期限ヲ不愆可致上納此段伊豫國へ布達候事

△丙第二十七號(十二月廿六日)

本年十二月丙第二十五號ヲ以高松出張所設置ノ儀布達候處別紙ニ掲クル條件願伺届等モ同所へ可差出此段讚岐國へ布達候事

高松出張所ニ於テ取扱候條件

- 一 社寺境外外區別ニ關スル事
- 一 社寺境外上地處分之事

一 公有地所有定メニ關スル事

一 民有地ニ新設スル墓地之事

一 田畠成畠田成田畠宅地成届ノ事(十二年一月丙第四號ヲ以テ下

條增加)但鐵下年季ヲ要セサル開墾地ハ本文ニ準ス

一 荒地鐵下年季ニ開スルコト

○丁第一號(一月十四日)第一大區ヨリ第七大區マテ大小區戸長

區戸長公務上ニ就キ出廳心得方之儀昨明治十年丁第九號ヲ以達ニ及

ヒ置候處儘右手續ヲ履行致サル向モ有之哉ニ相聞へ甚不都合ニ候

間自后屹度心得違無之様可致且丁第卅二號ヲ以追加但書之儀左之通

改正候條此段相達候事（但小區長ハ大區長ヲ經テ可伺出戸長出廳ノ節ハ小區長へ稟議ノ上タルヘク尤至急ノ事件ハ此限ニ非ス

△丁第貳號（一月十四日）讚岐國 各區々戸長 大區會議員

町村會議事役

大區會及ヒ町村會々議ノ節議員及ヒ議事役ノ内無届ニテ往々不出ノ者モ有之哉ニ相聞候處抑議員ナルモノハ一區一町村内ノ代議人ナレハ若シ不出スルキハ該區内人民ノ意見ヲ暢達スルニ由ナキ義故可成病氣ノ外ハ出頭可致ハ勿論無届ニテ不出スルハ甚不都合ニ付右様ノ義無之様注意可致此段爲心得豫メ相達候事

△丁第三號（一月十五日）第壹大區ヨリ第七大區迄各大小區々長

社寺寄附地之内從前寄附人ノ姓名或ハ何社寺神佛供田等券狀面種々之

名稱ヲ以下與シタル向往々有之處右ハ明治九年第五拾四號公布ニ據リ別段之契約無之分ハ寄附主ニ於テ其地所々有之權ヲ離シタルモノトシ處分可致答ニ付追テ改租之際券狀ハ其寄附セラレタル社寺ノ名稱ニ可相改候條此旨兼テ可申聞若寄附主ニ於テ別段之契約有之其所有ヲ離サレ向モ有之候ハ、至急取調神社ハ神官并ニ氏子總代寺院ハ住職并ニ檀中總代連印之上本年二月廿八日限リ地主名受ニ書換之儀可爲願出此段相達候事

△丁第四號（一月廿六日）伊豫國各區々長

各區醫務取締

松山病院収養館醫學所開設ニ付志願ノモノハ同所へ可申立旨先般布達候處各區左ノ割合ノ通試驗ノ上入學差許スヘク候條猶志願ノモノ

ハ來二月十日同所へ可爲願出此段相達候事

但本文ノ趣區内へ公示可致義ト可相心得候事(各區人員割合畧之)

○丁第五號(一月廿九日)第八大區ヨリ第廿一大區迄各區々長

明治七年五月達區長事務假條例第八條第一貫屬士族養子云々ノ一項
取消更ニ左ノ通委任候條婚姻寄留入籍脱籍者ヲ除キ附籍等ノ儀ハ戸長ニ於
テ其屆書ヲ聞置クヘシ此段相達候事

一士族ノ者養子相續人及入夫願ノ事

○丁第六號(二月六日)第一大區ヨリ第七大區迄各區々戸長學區取締
今般高松支廳委任ノ箇條左ノ通增加候條右ニ係ル諸願伺屆等ハ同廳
へ可差出此段相達候事

一借區稅ヲ收入スル事

一借區及試掘等廢業願ノ事

一諸事業試驗立合願ノ事

一學校寄附金願ノ事

一小學訓導並授業生幹事進退ノ事(十一年丁第七號ヲ以テ以下增
補)

一聯區監視並學區世話掛頭取以下進退ノ事

一勸業掛進退ノ事

一女子師範學校中學校小學校教員等除服ノ事

一學校休暇繰替ノ事

一小學校教員等管内外旅行ノ事

一徵兵下調ノ事(十一年丁第拾六號ヲ以テ以下增加)

- 一 成規アル事件ニ付鎮臺營所等へ往復ノ事
- 一 兵隊ノ者身上ニ關スル願届處分ノ事
- 一 各裁判所ニ於テ處刑ノモノ贖罪金等取立及差廻方等ノ事
- 一 醫術藥舖産婆針治揉治鑑札願及書換願ノ事
- 一 他府縣ノ醫員該縣免狀所持ノモノ及所持セサルモノ醫術開業願ノ事附タリ免狀所持セサルモノ該縣へ照會ノ事
- 一 種痘鑑札願ノ事

△丁第八號(二月十九日)自第八大區至第廿一大區各區々戸長

本年徵兵検査日割別紙ノ通ニ候條諸般ノ手續ハ兼テ相達置候通リ相心得不都合無之様可取計此段相達候事(但徵兵令参考第七條ノ通リ議員代抽籤爲致且ツ常備補充定員ノ外剩餘ノ分ハ悉皆補充兵申付候

旨其筋ヨリ達有之候條此旨各檢丁へ可申聞候事(別紙畧之)

△丁第九號(二月廿二日)第八大區ヨリ第二拾一大區マテ各區々戸長

明治九年坤第三十八號ヲ以官有地拜借願出候節借地料取調之義ニ付相達候趣モ有之候處其地之収獲ヲ計リ貢租ニ充ツヘキ分ト作徳ニ充ツヘキ分トヲ合計シ右之内ニテ郡村費區入費ヲ引去リ殘高ヲ以借地料ト定ムル時ハ小作人之所益無之様誤認候向モ有之趣ニ候處右借地料ハ地價百分之七分五厘ヲ直ニ壹ケ年ノ額ト可相心得尙参考之爲左ニ算則ヲ付シ此段相達候事

算則

一 反別壹反歩

此収獲米假令ハ壹石六斗

(内米貳斗四升) 但種肥代壹割五分

殘米壹石三斗六升

(此地價四拾圓八拾錢)

此代金四圓八錢 但壹石ニ付假リニ金三圓ト看做ス

内金壹圓貳錢 但小作人収益並村費區入費

殘金三圓六錢 但借地料則地價百分ノ七分五厘ニ當ル

内金貳圓四錢 但作德米金五分利
内金壹圓貳錢 但貢租貳分五厘

△丁第九號(二月廿三日)第一大區ヨリ第七大區マテ各小區々長

明治九年十月廿一日付番外ヲ以官有地拜借願出候節借地料取調之儀

ニ付相違候趣モ有之候處自今以後借地料ハ地價百分ノ七分五厘ヲ壹

箇年ノ額トシ左之算則ニ據リ其小區戸長於テ取調見込善相添差出候

様可致此段相違候事

但明治九年十月廿一日付番外達ハ取消候儀ト可相心得事

算則

一反別壹反步

此收獲米假令ハ壹石六斗

(内米貳斗四升) 但種肥代壹割五分

殘米壹石三斗六升

(此地價四拾圓八拾錢)

此代金四圓八錢 但壹石ニ付假リニ金三圓ト看做ス

内金壹圓貳錢 但小作人収益並村費區入費

殘金三圓六錢 但借地料則地價百分ノ七分五厘ニ當ル

内 金貳圓四錢
金壹圓貳錢

但 作德米金五分利
但 貢 租貳分五厘

○丁第拾號(三月二日)第一大區ヨリ第七大區迄各小區長

明治九年八月乙第九十九號ヲ以元香川縣ヨリ相達候大小區長事務規程下款ノ内第二十二條總テ風俗ヲ紊ス云々ハ取消更ニ同條エ左ノ箇件ヲ相加候條此段相達候事

區務繁劇ノ際戸長以下ノ除服出仕ヲ達スル事

○丁第拾壹號(三月四日)

第八大區ヨリ第廿一大區迄但
第十三大區ヲ除ク各區々戸長

諸渡金預リ証券手續ノ儀明治八年七月坤第百拾六號ヲ以テ相達置候處本月十一日ヨリ左之通改正候條此段相達候事

諸渡金預リ証券手續書

第一條 各區へ可下渡金員有之節ハ第壹號雛形ノ通第六課預リ証券

ヲ各大區々務所へ郵送スヘシ

但 正 副 區長出廳ノ節 又ハ戸長書記等出廳ノ者へ渡方
ヲ願フヘキノ添書ヲ持参スルキハ預リ証券ヲ
要セス直テニ拂切符ヲ下渡スモノトス

第二條 前條預リ証券各大區々務所へ到達後三日ヲ限リ第貳號雛形
ノ通區長名印ノ受取証券郵送スヘシ

但最初請取証券ヲ以請求シタルモノハ第六課送達書餘白へ領取
ノ旨ヲ記載シ差出スヘシ

第三條 前條預リ証券方法ハ官民ノ辨利ヲ量ル爲ニ設クル者ナレハ
租稅其他諸上納金ニ流用シ又ハ現金ニ引換候共其便宜ニ任ヌヘシ

第四條 此預リ証券ヲ以上納金ニ流用スルキハ第三號雛形ノ如キ裏
書ノ上現金同様相心得成規ノ通上納証書及第四號雛形ノ如キ仕譯

書ヲ添ヘテ上納スヘシ

但甲大區ノ証券ヲ乙大區ノ上納ニ立候儀ハ相成ラス

第五條 此預リ証券ヲ以現金ニ引換ルキハ第五號雛形ノ如ク裏書ノ上差出スヘシ(但戸長書記等出廳ノ者へ渡方ヲ願フトキハ副區長ノ内添書ヲ以テスヘシ)

第六條 前各條ニ照準シ不都合無之様取扱方注意致スヘシ尤實際施行ノ上差支ノ儀有之ニ於テハ改正スルコアルヘシ
右之通相定候事

明治十一年三月五日

愛媛縣

第壹號雛形

第何號

割印

預リ証

割印

第何大區

一 金何程
○課長檢印
○主任檢印

但何々

右下ケ渡金正ニ預リ置候也

愛媛縣

年號月日

第六課印

區長

何ノ誰殿

第貳號雛形 用紙小半紙梓罨紙

証

一金何程

但何々第何號預リ証券ヲ以御下渡ノ分

(預リ証券壹通限リ別紙ニ認ムヘシ)

右正ニ請取候也

第何大區々長

年號月日

何ノ某印

長官宛

第三號雛形

一 廉ノ内へ上納書式

區長割印

○ 表書ノ金員何々ノ方へ更ニ上納候也

二 廉以上ノ内へ上納書式

○ 一金何程

何々第三課納

○ 一金何程

何々第四課納

○ 一金何程

何々第六課納

(以下廉限リ記載スヘシ)

表書ノ金員内譯ノ通り更ニ上納候也

分裂上納ノ書式

○一金何程 何々第三課へ可納分

○一金何程 何々第四課へ可納分

○一金何程 何々第六課へ可納分

(以下廉限リ記載スヘシ)

一金何程 現金ヲ以可受取分

表書ノ金員内譯ノ通り上納殘金正ニ受取候也

第何大區々長

年號月日 何ノ某印

第四號雛形 用紙白小半紙

(他課へ上納ニ係ル分ハ別紙ニ認ムヘシ)

上納金仕譯書

一金何程

但何々或ハ何々外何廉上納ノ分別紙上納証書何通或ハ何小區

又ハ何小區ハ何小區ヨリ上納ノ分別紙上納証書何通

此譯

(証券及現金ヲ以上納ノ書式)

金何程 第何號預リ証券

(預リ証券壹通限リ記載スヘシ)

金何程 現金

(証券分裂及現金ヲ以上納ノ書式)

金何程

第何號預リ証券ノ内

但証券金高何程ノ内金何程ハ何々或ハ何々外幾廉第何課へ上

納差引殘金ヲ以如此

金何程

現金

右納金仕譯書面之通ニ有之候也

第何大區々長

年號月日

何ノ某印

長官宛

第五號雛形

區長割印

○表書ノ金員正ニ請取候也

第何大區々長

年號月日

何ノ某印

○丁第十二號(三月八日)

第八大區ヨリ第二拾一大區迄
第拾四大區ヲ除各區々戸長

明治九年九月十五日付番外達五拾石未滿船檢印假木札渡方取扱心得
書中第四條並第四號書式左之通改正候條此段相達候事

第四條

一新規造船願出候節税金ハ戸長役場へ預リ置願書ニ第四號ノ奥書シ
テ其都度進達致シ税金ハ月末可致上納事
但副書指出ニ及ハス候事

第四號

前書何船延長檢査仕候處相違無之候税金之儀ハ正ニ預置追テ上
納可仕候以上

戸長

年月日

何某印

檢印假木札付與仕候以上

區長

年月日

何某印

○丁第拾三號(二月十五日)第八大區ヨリ第廿壹大區迄 各大小區
去ル明治九年^七月^七坤第^九拾號ヲ以相達候專任ケ條ノ内小區々務所位置
移轉ヲ許可スル義ハ取消候ニ付自今後何出候義ト可相心得且又明治
七年五月相達候區長事務假條例中專任ヲ聽シ候科目ノ内諸興行願ヲ
許可スルケ條左ノ通但書增加候條此段相達候事

一諸興行願云々

但官地ニ係ル分ハ此限ニアラス

○丁第十四號(三月廿二日)讚岐國各大小區同醫務取締
醫業針治接洽鑑札願、義ニ付本年乙第二十四號ヲ以テ相達置候處右
ハ限日マテニ高松支廳へ可届出此段相達候事

○丁第十五號(三月廿五日)第拾四第拾九大區ヲ除ク各大小區
海面漁場ノ義ハ昨十年十二月甲第百五拾四號ヲ以テ布達候通漁業假
規則ニ準據シ本年一月限り更ニ出願可致之處尙今日ニ至リ延期願出
ル向モ有之右ハ各大區ニ跨ルモノ等往々協議上ニ時日ヲ費シ或ハ取
締人ヲ撰定スル等實際不得止ニ出ル儀モ可有之候得共兼テ布達置候
通り漁場ノ收穫及ヒ營業ノ等級ニ據本年一月ヨリ收稅候義ニ附遷延
候テハ不都合ノミナラス收稅上ニ差支候條谷大區々戸長ニ於テ一層
注意本年四月十五日限り取調進達候様可取計此段相達候事

△丁第十六號(三月廿七日)十一年丁第六號參考

○丁第拾七號(三月廿八日)第八大區ヨリ第廿一大區迄各大小區
從來貸渡有之官有地ノ内地種變換致度向ハ其都度可願出答ノ處或ハ
無其義借主共私ニ地種ヲ變換候者有之哉ノ趣不都合ノ至ニ候得共他
ニ差支無之既往ノ分ハ更ニ現今ノ地種取調本年四月限り可届出尤此
達以後地種變換致度向ハ其都度圖面相添願出候様可取計此段相達候
事(但シ最初ヨリ地種變換無之箇所ノ義モ尙調査ノ都合有之本文同
様取調可差出事

○丁第拾八號(四月一日)第一大區ヨリ第七大區迄各大小區
讚岐國各區へ諸渡金預リ券ヲ以テ交付取扱手續左ノ通假定シ本月十
日ヨリ施行候條此段相達候事(但預リ券ヲ郵送シ及ヒ受取證ヲ進達

スルキハ書留郵便ヲ以テ差出スヘシ

預り證券手續書

第一條 本廳ヨリ各大小區へ可下渡金員有之節ハ第一號雛形ノ通高
松支廳ヨリ全斷ノ節ハ第二號雛形ノ通第六課預り証券ヲ以テ各大小
區々務所へ郵送スヘシ（但大小區長出廳ノ節又ハ書記及ヒ戸長
出廳ノ者へ渡シ方ヲ願フヘキ添書ヲ持參スルキハ預り証券ヲ要セ
ス直チニ拂券ヲ下渡ス可シ

第二條 前條預り證券各大小區々務所へ到達スルキハ本支廳ヲ不論
三日限リ第三號書式ノ通大小區長ノ内名印ノ受取證券ヲ高松支廳
へ郵送ス可シ（但最初請取證券ヲ以テ請求シタルモノハ第六課送
達書餘白へ領收ノ旨ヲ記載シ差出ス可シ

第三條 前條預り證券方法ハ官民ノ便利ヲ量リ設クルモノナレハ租
稅其他諸上納金ニ流用シ又ハ現金ニ引換候共其便宜ニ任スヘシ

但シ預り券發付ノ日ヨリ五十日以内ニ本條之如ク執行スヘキモ
ノトス若シ此日限ヲ過クレハ該預り券ヲ本廳第六課ニ返付シ更
ニ書換ヲ乞フヘシ（十一年丁第四十二號ヲ以但書增加）

第四條 此預り證券ヲ以テ上納金ニ流用スルキハ第四號雛形ノ如ク
裏書ノ上現金全様相心得成規ノ通上納證書及ヒ第五號雛形ノ如キ
仕譯書ヲ添テ上納ス可シ

但甲區ノ預り證券ヲ乙區ノ上納ニ立ツルヲ禁ス

第五條 此預り證券ヲ以テ現金ニ引換ユルキハ第六號雛形ノ如ク裏
書ノ上差出ス可シ（但書記及ヒ戸長出廳ノ節受取方ヲ要スルキハ

大小區長ノ内添書ヲ以テス可シ

第六條 第三條四條五條ニ掲クル如ク本廳預リ券ヲ以テ納金ニ流用
シ又ハ現金ニ引換ヘ候ニ總テ高松支廳ニ於テ取扱フヘキモノトス
右之通假定候事

明治十一年四月一日

愛媛縣

第一號雛形

地第何號 **印割** 預リ証

第何大區何小區

課長檢印

一金何程○主任檢印

但何々

右下ヶ渡金正ニ預リ置候高松支廳ニ於テ現金交換可致候也

愛媛縣本廳

第六課印

年號月日

大區長或ハ小區長

何ノ某宛

第二號雛形

第何號 **印割** 預リ証

第何大區何小區

支廳長檢印

一金何程○主任檢印

但何々

右下ヶ渡金正ニ預リ置候也

愛媛縣高松支廳

百五十五

年號月日

第六課印

大區長或ハ小區長

何ノ某宛

第三號雛形

用紙白小判紙梓野紙

証

一金何程

但何々第何號預リ証券ヲ以テ御下渡ノ分

(預リ証券壹通限リ別紙ニ認ムヘシ)

右正ニ受取候也

第何大區長或ハ小區長

年號月日

何ノ某印

長官姓名宛

第四號雛形

一 廉ノ内へ上納書式

大小區長ノ内割印
表書ノ金員何々ノ方へ更ニ上納候也

二 廉以上ノ内へ上納書式

○ 一金何程

何々第何課納

○ 一金何程

何々第何課納

(以下廉限リ記載スヘシ)

表書ノ金員内譯ノ通更ニ上納候也

分裂上納書式

一金何程 何々第何課へ可納分

一金何程 何々第何課へ可納分

一金何程 何々第何課へ可納分

(以下廉限リ記載スヘシ)

一金何程 現金ヲ以可受取分

表書ノ(金員内譯ノ通上納殘金正ニ受取候也

第何大區或ハ小區長

年號月日 何ノ某印

第五號雛形 用紙白小判紙梓野紙

一金何程

但何々或ハ何々外何廉上納ノ分別紙上納証書何通或ハ何小

區又ハ何小區外何小區ヨリ上納ノ分別紙上納証何通

此譯

(証券及ヒ現金ヲ以上納ノ書式)

金何程 第何號或ハ地第何號証券

預リ証券壹通限リ記載スヘシ

金何程 現金

(証券分裂及ヒ現金ヲ以上納ノ書式)

金何程 第何號証券ノ内

但証券金高何程ノ内金何程ハ何々外幾廉第何課納差引殘

金如此

金何程 現金

右上納金仕譯書面之通ニ有之候也

第何大區長或ハ小區長

年號月日

何ノ某印

支廳長宛

第六號雛形

大小區長ノ内割印
表書ノ金員現金ヲ以テ受取候也

第何大區長或ハ小區長

年號月日

何ノ某印

○丁第拾九號(四月一日)自第八大區至第廿一大區 各大小區

老幼廢疾々病等ノ故ヲ以テ目今救助ヲ受候者有之向ハ其實況篤ト取

調別紙雛形ニ準據シ來ル四月十日迄ニ可届出尤爾後三ヶ月毎ニ取調

翌月十日迄ニ具狀スヘク此段相達候事

但死去候者有之節ハ其時々直ニ可届出事

(別紙雛形)

第何大區何小區何郡

何村何番屋敷

職業何某亡幾男女

職業

何 某

一廢疾

何年何月
何年何ヶ月

但生來廢疾等ニテ親戚或ハ隣保等ノ助力ヲ受ケシ處右不行
届又ハ跛躄盲目ノ類ニテ手業ヲ以テ生計ヲ營ミ來リシカ終
ニ爲ス能ハサルニ由リ何年何月何日ヨリ御救助相受居候處
今以テ自ラ生計ヲ營ム能ハス等其事實詳悉記載スヘシ

肩書右ニ倣ヘ

一疾病

何 某

何年何月
何年何ヶ月

但何年何月ヨリ何症ニ罹リ前同斷今以テ全快不致又ハ追々
快方ニ赴ク云々前ニ同シ

肩書同上

一幼弱

何 某

何年何月
何年何ヶ月

但何年何月ヨリ父母又ハ親戚等ニ別レ云々今以テ他ニ養育
スヘキ者モ無之云々前ニ同シ

肩書同上

一老衰

何 某

何年何月
何年何ヶ月

但書前ニ倣ヘ

右ハ當區内ニ於テ御救助受居候者實況取調候處前書ノ通相違無之
此段御届仕候也

第何大區何小區戸長

年月日

何某

長官宛

前書之趣取糺候處相違無之候也

第何大區々長

何某

○丁第二十號(四月一日)自第一大區至第七大區 各大小區

明治九年^五乙第廿六號ヲ以テ老幼廢疾々病等ノ故ヲ以テ救助ヲ受候者三ヶ月毎ニ其實況取調可届出旨元香川縣ヨリ相違有之候處右ハ該達ニ準據シ各小區長ヨリ高松支廳へ届出候儀ト可相心得此段爲念相達候事

○丁第二十一號(四月一日)各大小區

明治十年丁第八拾號ヲ以季節内醸造酒石高検査戸長へ委任之儀相達置候處右達ハ取消爾後官員派出可及検査候條其旨可相心得尤當季之醸造ニ限目下賣捌指支候向ハ於戸長遂検査可爲致賣捌此段伊豫國各區へ相達候事

但本文ニ抵觸スル從前ノ指令等ハ都テ取消之義ト心得ヘシ

△丁第貳拾貳號(四月十一日)沿海各大小區

流行病豫防ノ爲各小區へ常ニ檢疫豫防係貳名ヲ置クヘクニ付該區醫務取締へ協議ノ上人名取調可伺出此段相達候事(但平常ハ給料ヲ給セサル義ト心得ヘシ) 十二年乙第百廿一號ヲ以豫防掛撰定ノ儀取消

○丁第二十三號(四月十三日)各大小區

明治十年^六丁第五拾八號ヲ以諸車鑑札取扱及税金徵收心得寺相達置

候處更ニ別紙之通改定候條此段伊豫國各區へ相達候事

諸車鑑札取扱及税金徴收心得

第一條 諸車鑑札ハ凡積ヲ以受取置每半季六月未殘餘有之節ハ次季ノ豫備トシテ預リ置鑑札受拂ハ甲號還納鑑札ハ乙號書式ニ準シ稅表ニ副へ可差出事

第二條 鑑札下附人名簿ヲ製シ番號並下渡年月日及ヒ破解讓渡等ノ年月日並其事由等詳記可致置事

第三條 諸車賣買讓渡届出候節ハ賣主ヨリ鑑札爲致返納讓受人へハ更ニ鑑札下渡其事由人名簿へ可致詳記事

第四條 諸車破解等之節ハ鑑札爲致還納其譯人名簿へ可致登記事

第五條 佗區内へ轉居又ハ賣買候節甲區ニ於テハ鑑札爲致還納其旨

乙區へ通知シ乙區ニ於テハ更ニ鑑札下渡其譯双方人名簿へ登記鑑札受拂並返上内譯書へモ詳記致スヘキ事（但同區内轉居ノモノハ鑑札還納致サスルニ及ハス其譯人名簿へ登記致スヘキ事

第六條 新調ノモノハ其時々税金收入ノ上鑑札ヲ下附シ税金ハ毎月未取纏メ可致上納事

第七條 一月中賣買願出候分ハ渾テ賣主ヨリ納稅爲致然ル後鑑札下附致スヘキ事

第八條 車稅表 前半季ハ七月三十一日限可差出事
後半季ハ一月三十一日限可差出事
但表用紙ハ凡積ヲ以可下渡事

第九條 荷積車ノ内耕作一途ニ相用ヒ候分ハ規則第五則ニ照ラシ免稅鑑札可致下附ニ付第一條ニ準シ取扱フヘキ事

第拾條 前條免稅タルヘント雖モ農暇ヲ以テ他ノ稼方ニ混用スルモ

ノハ税金可致收入事

第拾一條 一月中取立候税金ハ翌月十日限上納可致事十一年丁第廿五號ヲ以追加

第拾二條 一鑑札遺失或ハ紛失等届出候ハ直ニ代リ鑑札相渡本人

届書ニ其旨添書ヲ以可差出事十一年丁第三十八號ヲ以追加

甲號

諸車鑑札受拂

明治何年六月ヨリ十二月越高(免稅車ハ之ニ倣ヒ別紙ニ認ムヘシ)

第何號ヨリ
第何號マテ

一鑑札 何枚

明治何年何月受取高

第何號ヨリ
第何號マテ

一鑑札 何枚

明治何年何月受取高

第何號ヨリ
第何號マテ

一鑑札 何枚

合鑑札何枚

内

第何號ヨリ
第何號マテ

新規稼

何人渡

鑑札 何枚

第何號ヨリ
第何號マテ

盜難遺失毀損等ノ者

何人再渡

鑑札 何枚

右邊全要 下

第何號ヨリ
第何號マテ

鑑札 何枚

他府縣並他區ヨリ買受 何人渡

第何號
第何號

鑑札 何枚

區内限賣買讓與等ノ者 何人引換渡

小以鑑札何枚

差引

第何號ヨリ
第何號マテ

鑑札 何枚 七月後 豫備ノ分

(以下各車一種毎右ニ準シ追記スヘシ)

右之通 七月ヨリ 十二月迄鑑札受拂相違無之候也

第何大區々長

何之誰

長官宛

乙號

諸車鑑札返上内譯

貳人乘人力車 (免稅車ハ之ニ倣ヒ別紙ニ認ムヘシ)

一鑑札何枚 何年何月中返納

内

| | |
|-------------|---------|
| 第何號何年何月何日下付 | 何月何日廢業 |
| 第何號何年何月何日下付 | 何月何日賣渡 |
| 第何號何年何月何日下付 | 何月何日讓渡 |
| 第何號何年何月何日下付 | 何月何日毀損 |
| 第何號何年何月何日下付 | 何府縣或ハ賣渡 |
| 第何號何年何月何日下付 | 何大區へ |

以下半季中各月限右ニ倣フ

百六十三

壹人乘人力車

一鑑札何枚 何年何月中返納

内

第何號 何年何月何日下付 何月何日廢業
以下前ニ同シ

(各車一種毎右ニ準シ追記スヘシ)

右鑑札相添御届仕候也

第何大區々長

何之離

長官宛

表面記載凡例

一諸車稅上納之儀ハ年々兩度ニ區別シ半年分宛收入候儀ニ付表面

ノ項上ヘハ前半季ハ 〔一月ヨリ 六月マテ〕 後半季ハ 〔七月ヨリ 十二月マテ〕 ト記
載スヘシ

一現員ト記スル區ヘハ前季差引越ノ車數ヲ記入スヘシ

一新調ト記スル區ヘハ其半季 〔前半季ハ一月 後半季ハ七月 〕
ヨリ六月マテ 〔ヨリ十二月迄〕

中新調ノ車數ヲ記入スヘシ

一計ト記スル區ヘハ現員ト新調ノ合數ヲ記入スヘシ

一買入ト記ス區ヘハ其半季 〔前半季ハ一月 後半季ハ七月 〕
ヨリ六月マテ 〔ヨリ十二月マテ〕

中他管内或ハ他區内ヨリ買入ノ車數ヲ記入スヘシ

但同大區内限賣買スルモノハ該區畫ヘ記入ニ及ハス

一合計トスル區ヘハ現員並新調及ヒ買入ノ合數ヲ記入スヘシ

一賣拂及ヒ破解ト記スル區ヘハ其半季 〔前半季ハ一月 後半季 〕
ヨリ六月マテ 〔ハ七月 〕

明治 年 月 日 月迄半季諸車税金上納一目表

| 收額 | 名稱 | 車數 | 税金 | 名稱 | 車數 | 税金 | 名稱 | 車數 | 税金 | 税金總計 | |
|---|--|-----|----|------|-----|----|--------|-----|----|---------------|----|
| | | | | | | | | | | | 現員 |
| 壹ヶ年 馬車 稅金 三圓 馬車 稅金 貳圓 人力車 稅金 貳圓 人力車 稅金 壹圓 | 馬車 稅金 壹圓 牛車 稅金 壹圓 荷大八 積大七 車稅金 壹圓 荷積小 中車稅金 五拾 | 現員 | | 荷積馬車 | 現員 | | 人力車貳人乘 | 現員 | | 荷積大七八八車 | 税金 |
| | | 新調 | | | 新調 | | | 新調 | | | |
| | | 計 | | | 計 | | | 計 | | | |
| | | 買入 | | | 買入 | | | 買入 | | | |
| | | 合計 | | | 合計 | | | 合計 | | | |
| | | 賣拂 | | | 賣拂 | | | 賣拂 | | | |
| | | 破解 | | | 破解 | | | 破解 | | | |
| | | 差引越 | | | 差引越 | | | 差引越 | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| 壹ヶ年 馬車 稅金 三圓 馬車 稅金 貳圓 人力車 稅金 貳圓 人力車 稅金 壹圓 | 馬車 稅金 壹圓 牛車 稅金 壹圓 荷大八 積大七 車稅金 壹圓 荷積小 中車稅金 五拾 | 現員 | | 荷積牛車 | 現員 | | 人力車壹人乘 | 現員 | | 荷積中小車 但大六以 | 税金 |
| | | 新調 | | | 新調 | | | 新調 | | | |
| | | 計 | | | 計 | | | 計 | | | |
| | | 買入 | | | 買入 | | | 買入 | | | |
| | | 合計 | | | 合計 | | | 合計 | | | |
| | | 賣拂 | | | 賣拂 | | | 賣拂 | | | |
| | | 破解 | | | 破解 | | | 破解 | | | |
| | | 差引越 | | | 差引越 | | | 差引越 | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

愛媛縣 國第 大區

明治 年 月 ヨ リ 月迄半季諸車税金上納一目表

| 收額 | 名稱 | 車數 | 税金 | 名稱 | 車數 | 税金 | 名稱 | 車數 | 税金 | 税金總計 | |
|--|---|----------------|----|---------|-----|----|----|-----|----|------|------|
| | | | | | | | | | | | 現員 |
| 壹年 馬積 車稅 三圓 馬積 車稅 貳圓 人力 車稅 貳圓 壹人 力車 稅金 壹圓 | 馬積 車稅 壹圓 牛積 車稅 壹圓 但積 小車 稅金 五拾錢 | 馬車 積立 以上 | 税金 | 馬積 車 | 現員 | | 税金 | 現員 | | 税金 | 税金總計 |
| | | | | | 新調 | | | 新調 | | | |
| | | | | | 計 | | | 計 | | | |
| | | | | | 買入 | | | 買入 | | | |
| | | | | | 合計 | | | 合計 | | | |
| | | | | | 賣拂 | | | 賣拂 | | | |
| | | | | | 破解 | | | 破解 | | | |
| | | | | | 差引越 | | | 差引越 | | | |
| | | | | | 現員 | | | 現員 | | | |
| | | | | | 新調 | | | 新調 | | | |
| 計 | | 計 | | | | | | | | | |
| 買入 | | 買入 | | | | | | | | | |
| 合計 | | 合計 | | | | | | | | | |
| 賣拂 | | 賣拂 | | | | | | | | | |
| 破解 | | 破解 | | | | | | | | | |
| 差引越 | | 差引越 | | | | | | | | | |
| 現員 | | 現員 | | | | | | | | | |
| 新調 | | 新調 | | | | | | | | | |
| 計 | | 計 | | | | | | | | | |
| 買入 | | 買入 | | | | | | | | | |
| 合計 | | 合計 | | | | | | | | | |
| 賣拂 | | 賣拂 | | | | | | | | | |
| 破解 | | 破解 | | | | | | | | | |
| 差引越 | | 差引越 | | | | | | | | | |

愛媛縣 國第 大區

檢印願并賣買解車届等渾テ各小區長へ委任候條願届等差出候ハ、
新調ハ檢印烙記解車ハ檢印删除等夫々可取計事

第二條 諸車根帳ヲ製シ新規破解又ハ賣買等増減有之節ハ其時々加
除明瞭ニ可致事

第三條 七月 中賣買願出候節ハ賣主ヨリ收稅致サセ候上聞届可申事
第四條 七月 中收入ノ稅金ハ翌月十日限應納可致事

第五條 新調車檢印願出候節ハ其時々稅金收入ノ上檢印烙記可致事
但稅金ハ取纏メ月末可致上納事

第六條 荷積車ノ内耕作一途ニ相用候分ハ規則第五則ニ依リ免稅タ
ルベシト雖モ其車ヲ以他ノ稼方ニ兼用スルモノハ稅金收入可致事
第七條 別紙雛形ノ如キ稅表用紙相渡候條前半年分 一月ヨリ 七月三
六月マテ

十一月限後半年分 七月ヨリ 十二月マテハ一月三十一日限可差出事
但表用紙ハ凡積ヲ以可下渡事

第八條 稅表記載方之儀ハ別紙記載例之通可相心得事

(別紙)表面記載凡例 丁第廿三號ト
同文ニ付畧之

△丁第貳拾七號(四月廿五日)索引參考

△丁第二十八號(五月二十日)第一大區ヨリ第七大區迄 各大小區

明治九年八月九日舊香川縣乙第百十號達シ士族明細短册差出方ノ義詮
議ノ次第有之取消候條一般士族輩へ相示スヘク此段相達候事

△丁第二十九號(五月廿三日)自第一大區至第七大區 各大小區
火葬ヲ營ムモノ尸體燒燼ノ儀ハ其烟氣大ニ人生ニ害アルヲ以テ燒場
ノ人家接近ノ地ニアルモノハ遠隔ノ地ニ更設スヘキ旨豫テ達ノ趣モ

有之ニ付テハ右燒場接近ノ地へ家屋建設不相成筈ニ候條心得違無之
様注意可致此段爲念更ニ相違候事

△丁第三拾號(六月十日)自第一大區至第七大區 各大小區

米商會所ノ義ニ付テハ明治九年八月太政官第百五號公布ノ趣モ有之
麥其他雜穀ノ類ト雖モ中買人共ヲ集會セシメ口錢ヲ取入シ石建及相
場等以テ限月或ハ現場賣買取引ヲナスカ如キ固ヨリ米商會所ノ營業
ニ類似ノモノニ付規則書相添出願ノ上ナラテハ營業不相成候條心得
違ノ者無之様注意可致此段相違候事

△丁第三十一號(六月十五日)各大小區

明治十一年分地租之儀ハ未タ改租整頓ニ至ラサルヲ以テ昨十年分同
様假ニ去ル明治六七八三ヶ年平均額ヲ以根據トシ六步一ヲ減シタル

モノヲ以テ取極候間此旨相心得期限ヲ愆ラサル様上納可爲致尤割賦
帳之儀モ昨十年分同様ニ付別段下附不致候條此旨モ可相心得此段伊
豫國へ相違候事

○丁第三十二號(六月二十日)第壹大區ヨリ第七大區迄 各大小區

金穀納證書并請取証書之用紙儘一定ナラス后日編輯方不都合ニ付今
後各區々長ヨリ差出ス納受証書ハ判紙大凡豎八寸貳步
横一尺一寸五步梓罫紙一般人
民ヨリ差出ス請取証書ハ白判紙寸方
全上可相用此段相違候事(但風火水

等罹災ノ者へ貸渡シ金証書ハ昨十年乙第百六十二號達之通タルヘシ

△丁第三十三號(六月廿九日)第八大區ヨリ第廿一大區マテ 各大區

明治十年七月ヨリ同十二月マテ管内人民へ賦課可致分別紙ノ通有之
候條早々取立來ル七月三十日限上納可致此段相違候事

但管内一般戸石七三法ヲ以賦課致候得共各區ニ於テハ從前ノ方法ニ倣ヒ適宜取立不苦且又三ヶ月分ヲ可賦課成規ニ候處金額少數ニ付本文ノ通半ヶ年分ヲ今般賦課候儀ト可相心得候事

明治十年 七月ヨリ 十二月マテ 民費賦課表(別紙)

一金百三拾七圓貳錢三厘 府縣郵送者付添人足賃

一金貳拾錢六厘 難破船救助入費

一金六圓拾九錢貳厘 揭示場建築費十年七月以前ノ分

小計金百四拾三圓四拾貳錢壹厘(内譯累之)

△丁第三十四號(七月十六日)第一大區ヨリ第七大區マテ 各大小區太政官民部省金札交換ニ付テハ明治八年三月元名東縣達ニ照準所分可致旨本年乙第六拾八號ヲ以相達候所右手續書中右ニ關スル區戸長

筆墨料其他ノ諸費トシテ交換金額千圓ニ付貳拾五錢ニ上ラサル高ヲ支給ノ答ニ候得共支廳隔絶ノ場所ヨリ出廳ノ區戸長ニ於テハ旅費難引足難澁ノ趣ニ相聞候間此度限り右貳拾五錢ノ外五里以外出廳ノ區戸長へ交換委託金額千圓ニ付壹里八錢ノ割合ヲ以往返ノ手當支給可致候此段相達候事

△丁第三十五號(七月十六日)第八大區ヨリ第廿一大區迄 各大小區太政官民部省金札交換ニ付テハ明治八年坤第四拾三號達ニ照準所分可致旨本年乙第六拾八號ヲ以相達候處右手續書中第七八條ノ儀ハ專ラ細民等無力ノモノ、爲メ取設候儀ニ付右ニ關リ候區戸長ノ筆墨料其他ノ諸費トシテ交換金額千圓ニ付貳拾五錢ニ上ラサル高ヲ支給候得共本廳隔絶ノ場所ヨリ出廳ノ區戸長ニ於テハ旅費難引足難澁ノ趣

ニ相聞候間此度限リ右貳拾五錢ノ外五里以外出廳ノ區戸長へ交換委
托金額千圓ニ付壹里八錢ノ割合ヲ以往返ノ手當支給可致候此段相達
候事

但區戸長ノ旅費ハ委托人ノ金高ニ割合爲受取可申旨指令及ヒ置候
向モ有之候得共本文ノ手當支給候上ハ一切委托人ヨリ支辨爲致候
儀ハ不相成候事

△丁第三十六號(七月十七日)第十四大區ヲ除ノ外各大小區
船稅領收証書之儀ハ一紙五ヶ年間相用來候處今後其都度更ニ下ヶ渡
候條稅金上納之際從前下附有之領收証書ハ不及差出候此段相達候事

△丁第三十七號(八月二日) 第八大區ヨリ二十一一大區マテ
十四大區ヲ除ク各大小區
五拾石未滿船及浮漁船前海川小回船等稅金上納方ノ儀ニ付本年二月乙

第二拾三號ヲ以相達置候趣モ有之候處收入差湊候節ハ上納証書每一
通ノ假領收証書相渡置追而人別限領收証書ニ引換候義モ可有之候條
假領收証書ハ大區或ハ小區々務所ニ留置追テ人別限証書相渡候節假
証書返納可致此段相達候事

○丁第三十八號(十月十一日)索引參考

△丁第三十九號(十月十二日)各大小區

今般第二十八號ヲ以酒類稅則中改正追加ノ義布告相成候ニ付テハ明
治八年十一月十一日 舊香川縣二等第六號達ハ消滅候義ト可相心得此段讀岐國
各區へ相達候事

△丁第四拾號(十月十二日)各大小區

今般第二十八號ヲ以酒類稅則中改正追加ノ儀布告相成候ニ付テハ明

治九年九月廿日付番外達 ボダイ酒 取消候條此段伊豫國各區へ相達候事

△丁第四拾壹號(十月十二日)各大小區

十年分本造酒検査後醸造之酒類本年九月三十日迄ニ戸長検査濟之分ニシテ右届書未々指出無之向ハ取纏メ本月廿日限無遺漏可差出此段伊豫國各區へ相達候事

○丁第四十二號(十月八日)索引参考

△丁第四拾三號(十月三十一日)沿海 各大小區 浦役人

明治七年第五號ヲ以テ海上衝突豫防規則公布相成候爾來續々布達之旨モ有之候ニ付テハ一般其規則ヲ熟知シ點燈航海可致之處日本形ニ於テハ往々其規則ヲ誤リシ點燈ノ方位宜シキヲ得サルノミナラス甚

シキハ紅燈ヲ右舷ニ綠燈ヲ左舷ニ掲出候者モ有之趣右ハ畢竟乘組ノ者規則ヲ了知セサルヨリ衝突ヲ起シ不測ノ患害ヲ招クノ擲念有之甚以容易ナラサル儀ニ付右規則ノ主趣船舶所持ノ者並船乘渡世ノ者へ懇篤説諭可致此段相達候事

○丁第四拾四號(十一月十四日)各大小區

諸賑興行之内曲馬猿舞 馬芝居猿芝居 等是迄興行稅收入方區々相成候趣ニモ相聞候處自今右興行稅ハ一日金七拾五錢徵收可致此段伊豫國各區へ相達候事

○丁第四拾五號(十一月十四日)各小區

諸賑興行之内曲馬猿舞 馬芝居猿芝居 等是迄興行稅收入方區々相成候趣ニモ相聞候處自今右興行稅ハ一日金五拾錢徵收可致此段讚岐國各

區へ相違候事

△丁第四拾六號(一月廿一日)第一大區ヨリ第七大區マテ 各大小區海上衝突豫防舷燈製造及販賣致候者ハ別紙規則各款ニ準據可致答之處萬一脆薄ノ品ヲ製シ及ヒ請賣候テハ需用者ニ於テ却テ不測ノ患害ヲ醸成ス可キ恐レ有之候條舷燈營業ノ者共ヘハ得違無之様懇篤可申聞此段相違候事

舷燈製造及販賣規則

第一條 凡ソ舷燈ヲ製造セント欲スル者ハ先ツ其見本ヲ製シ之ヲ其管轄廳ヲ經テ驛遞寮へ差出製造免許ヲ乞フヘシ

第二條 驛遞寮ニ於テハ其差出セル舷燈ノ見本ヲ検査シ能ク堅牢ニシテ且其規ニ合スルモノハ其管轄廳ヲ經テ製造免許鑑札ヲ下付ス

ヘシ此場合ニ於テハ其製造人ノ地名氏名ヲ同寮ヨリ廣告スヘシ

第三條 其製造免許鑑札ヲ得ル者ハ驛遞寮免許舷燈製造所ト記セル看板ヲ掲出スヘシ

第四條 其製造セル每器ニ左式ノ文字及ヒ其製造番號ヲ彫刻スヘシ
何番

驛遞寮免許

何國何郡何地

製造人

何 某

第五條 凡ソ舷燈ヲ販賣セント欲スルモノハ先ツ其管轄廳へ何國何地製造人何某ノ製造セル舷燈ヲ販賣シ度旨ヲ申出テ其廳ノ販賣免許ヲ受クヘシ

第六條 此販賣免許ヲ得タル者ハ舖頭ニ官許舷燈賣捌所ト記セル看

板ヲ掲クヘシ

第七條 管轄廳ニ於テハ不時ニ吏員ヲ製造所及ヒ販賣所ニ出シテ薄弱毀損シ易キ或ハ射照不適ノ燈籠ヲ製造或ハ販賣セサル稜監査セシムヘシ但シ驛遞寮管船課ノ吏員ヲシテ不時ニ監査セシムルニアルヘシ

第八條 免許ヲ得タル製造人ハ自ラ販賣人ヲ兼ルヲ得ヘシ此場合ニ於テハ別ニ管轄廳ヨリ販賣免許ヲ受ルニ及ハサルヘシ

第九條 製造及ヒ販賣免許料并ニ營業稅共本年二月ヨリ來ル明治十年一月迄十ヶ年間免除スヘシ

第十條

〔十二年乙第七拾二號ヲ以第十條刪除〕

△丁第四拾七號(十二月四日)各大小區

明治十一年度地租金ノ儀ハ昨十年平均租額ヲ基トシ假額指示有之候處今般田畑毛地改租收獲額受書差出候村々ハ右收獲額ニヨリ假額ヲ改正シ他ノ地種ハ最前下附候割賦帳之通據置不日納金仕譯書可下渡候條昨十年第五拾三號公布之期限ニ照ラシ上納可取計此段讀岐國ヘ相達候事

△丁第四拾八號(十二月十五日)索引參考

△丁第四拾九號(十二月十六日)讀岐國 舊各小區

今般甲第百四十號ヲ以其役場廢止候ニ付小區ノ事務ハ郡長エ町村ノ事務ハ各町村受持舊戶長エ可引繼此段相達候事

○無號(九月廿五日)各大區醫務取締

本年十月十五日ヲ以テ衛生醫事會議開會候條左之議題各自答按ヲ草
シ會日ニ先ダツ三日以前廳下ニ來集シ宿所相定メ可届出此段相達候
事(但シ病氣或ハ事故アリテ出頭難整向ハ模寄醫務調查係ヲ公撰シ
抽籤ニ當ル者ヲシテ代理致サス可キ事

醫務調査係及ヒ醫員於テモ今般達スル所ノ議題ニ就テ見込有之候
ハ、書面ヲ以テ取締迄差出スヘキ旨及ヒ各醫員傍聽差許候條其旨
通知可致事

旅費日當ハ是迄ノ通支給スヘク閉會翌日歸程ニ就クヘシ若シ事故
アリテ止留スル者ハ自費タルヘキ事

議題

一墮胎ハ從來ノ嚴禁タルモ猶陰ニ侵スモノアリ之ヲ取締ルノ方法
ヲ問フ

一醫員各會議所ニ於テ產婆ヲ教育スルノ方法ヲ問フ

一縣下各地ノ飲料ニ供スル井水ヲ試驗スルノ方法ヲ問フ

一貧民施藥ノ方ヲ設クル方法ヲ問フ

一針灸揉治ノ者ヲ一層嚴密ニ取締ノ法ヲ設クル方法ヲ問フ

一紙塑人體ヲ購求シ各區醫員ノ會議所ニ回送シ研究スルノ方法ヲ
問フ

一醫學生徒中優秀ノ者ヲ撰摘シ貸費生トナスノ方法ヲ問フ

○地租改正第六拾九號(四月十一日)第八大區ヨリ第廿一大區マテ

各大小區

明治九年五月廿日地租改正第二十六號ヲ以テ伐替畑ノ山岳溪谷等ニ在テ速ニ丈量不整向ハ特殊ノ詮議ヲ以第二着ニ附セシメ候儀モ可有之云々相達置候處伐替畑ハ耕宅地ト一齊ニ可致調査旨其筋ヨリ違ノ次第モ有之候條各村ニ於テ切替畑丈量未濟ノ分ハ此達到着後五日間ニハ必ラス丈量ニ着手爲致其村名可届出此段相達候事(但切替畑丈量皆濟ノ區ハ是亦其旨往復日數ヲ除キ五日間ニ可届出候事

○地租改正第七十號(五月廿三日)第八大區ヨリ第廿一大區マテ

各大小區

過ル明治九年地租改正第三十六號達書中左之通更正候條此段相達候

事

四行目(記載)ノ下致シ云々ノ三十八字ヲ取消ス

○地租改正第七十一號(八月八日)第八大區ヨリ第廿一大區迄

各大小區

過ル明治八年八月地租改正第二號地所取調心得書第五條ヲ以テ郷村社以上ノ境内從前有稅無稅ニ不拘一般除稅ニ相成云々相達置候處今般其筋ヨリ該社所有地ハ除稅シ人民名請地ハ賦稅スヘキ旨指令有之候條其旨相心得諸般調理可致此段相達候事

○地租改正第七十二號(九月三十日)第八大區ヨリ第廿一大區マテ

各大小區

地租改正第四十六號ヲ以相達候地價一筆限帳離形之内地價地租之兩

對左之通更正候條此段相達候事

| | | |
|----------|----------|----------|
| 地 | 價 | 租 |
| 何拾何圓何拾何錢 | 何圓何拾何錢何厘 | 何圓何拾何錢何厘 |
| 分三 | 分二 | 分三 |
| 半 | 半 | 半 |

(印朱書)

下卷正誤

- 二拾二丁 表面 八行 埋葬之下科ハ(料)ノ誤
- 三拾三丁 表面 九行 各村ニノ下(於)ヲ脫ス
- 五拾壹丁 裏面 六行 更ニノ下(其)ヲ脫ス
- 八拾八丁 表面 四行 確認ハ(確)認ノ誤
- 八拾九丁 表面 六行 云々以上ハ(云々以下)ノ誤
- 九拾三丁 裏面 十一行 開懸ハ開(墾)ノ誤
- 百九丁 表面 四行 定額ハ定(規)ノ誤
- 百拾丁 裏面 六行 地方ハ(他)方ノ誤
- 百拾四丁 表面 四行 地方ハ(他)方ノ誤
- 百二拾三丁 裏面 十一行 吏ハ(更)ノ誤

百二拾七丁 表面 野外 七行宣ハ(宣)ノ誤
 百二拾八丁 野中 宇西和ハ(西字和)ノ誤
 百三拾五丁 表面 九行 親旅ハ親(族)ノ誤
 百四拾二丁 表面 五行 開ハ(關)ノ誤
 百四拾三丁 裏面 一行 十日ノ下(限)ヲ脱ス
 百四拾三丁 裏面 三行 各區々ノ下(戸)ヲ脱ス
 百四拾四丁 裏面 七行目ノ次へ左ノ數字ヲ脱ス
 △丁第七號 二月十九日(十一年丁第六號參考)
 百六拾一丁 表面 十一行 第一條ノ下(二條)ノ二字ヲ脱ス

明治十二年十月十一日出版御届
 同年十一月 出版

愛媛縣平民

編輯兼出版人 梶原 猪之松

愛媛縣讀岐國香川郡

西新通町百一番地寄附

定價金六拾錢

